

シンポジウム

ホームレス女性の背景は

～ 彼女の物語と自立するまで ～

Symposium on Homeless Women;  
Conditions of Homeless Women in Japan  
and the Current Aid Activities by NGOs  
and Social Welfare Associations

水内俊雄 (大阪市立大学都市研究プラザ教授) 編

Toshio MIZUUCHI, edited, Professor,  
Urban Research Plaza, Osaka City University

本シンポジウムは、水内俊雄を研究代表とする、科学研究費基盤研究（B）「排除から包摂をめざしたホームレスの中間居住施設と地域定着事業の支援体系構築」において、日本の女性ホームレスを語るほぼ初めてともいえる企画として、富山市でおこなったものである。都市研究プラザの第3ユニット（社会包摂）の基幹プログラムがホームレス支援活動への大学の参与であり、今までの人的ネットワークを動員しての企画となった。富山市は研究代表水内が以前赴任していた地（富山大学）であり、そこで培われたネットワークとの連携でもあった。プログラムは、このシンポジウムをはさみ、富山市のホームレス支援団体との炊き出しを通じた交流と、女性相談所の訪問、そして地元女性支援団体との宿泊交流会も合わせて行われた。



# ホームレス女性の背景は？ 彼女の物語と自立するまで

ホームレス女性の社会的背景を理解し、  
本当に必要な支援は何か、  
参加者と一緒に考える！

ホームレスって？  
・・・今、路上生活をしている人だけ  
ではないのです！ホームレスとは「居  
住の不安定な状況」のこと。  
ホームレスは、他人事ではない。  
あなたのすぐそばにある！？  
明日からの女性支援に、ホームレス支  
援のノウハウを使える！

日時：2009年6月27日(土)第1部 13:30~15:30

第2部 15:45~17:00

場所：富山県民共生センターサンフォルテ 3階 303号室

コーディネーター：水内俊雄 大阪市立大学 都市研究プラザ 副所長 教授

シンポジスト：織田隆之 知的障害者更生施設 伯太学園 副施設長 (大阪府)

横田千代子 婦人保護施設いづみ寮施設長 全国婦人保護施設等連絡協議会会長 (東京都)

全国初！  
夢のような  
豪華なメンバー！

益子千枝 大阪自彊館 野宿生活者巡回相談室 相談員

森本初代 新しい自立化支援塾 代表 (徳島県)

小川卓也&竹浦史展 NPO 法人エスエスエス 理事 (首都圏)

葛西川 大阪市立大学 都市研究プラザ 特別研究員

問い合わせ先：ウィメンズカウンセリング富山 TEL 080-3045-2176

主催：ウィメンズカウンセリング富山

共催：大阪市立大学 都市研究プラザ

裏に内輪話あり

## ウィメンズカウンセリング富山代表と都市研究フラザ副所長とのある日の会話・・・

- くぬ : 今回、現場で活躍しているすごい人たちが7人もシンポジストとして来られるんですけど、小さな会場で50人くらいしか入れません。富山まで来ていただいているんですか？
- みず : この多彩なメンバーが集まるだけでも画期的。はじめて顔を合わせる人もいるのでお互い勉強し合いたいと思っている。だから人数のことはそんなに心配しなくて大丈夫。すごくいい出会い、学び合いになると思う。
- くぬ : 安心しました。ところで、ホームレスのとらえ方ですが、水内さんの調査報告書を見て、とても幅が広いと思いました。ホームレスというのは「居住の不安定な状況」ということで、①脱野宿生活者、②現在野宿生活者、③野宿生活になる恐れのある人(予備軍)が含まれるということですね。厚労省の調査では②だけを対象にしていますよね。私たちが普段接しているDV女性は、確かに③に入ります。私たちも人ごとではありません。そのように考えると、「あなたや私の隣にホームレスはある」ということになります。
- みず : ホームレスの人は、顕在化しにくいので、窓口で待っているだけではダメで、いわゆるアウトリーチ(出向いていく)がないと、会うことができません。また、支援する現象が広すぎて、支援する側は一人の人の最後まで見届けることは不可能に近い。その間に精神的にもたいへん消耗する。なので何かあったときの「寄港先」になるという考え方で、困ったときはいつでも相談して、という気持ちで取り組もうというようなことも現場では言われている。
- くぬ : 一生懸命やりすぎると、依存度が高まることも起こるので、境界線は必要ですね。
- みず : 現状では、入居支援、居住支援という形で降りてくるようなはっきりした公的なお金がなく、生活保護というイメージも支援だというニュアンスが出てこない。また地域の社会資源をうまく使いきれていないことも問題だと思う。
- くぬ : ホームレスの問題は多岐にわたるし、多彩な顔ぶれなので、シンポジウムの方向性を決めることが難しい。テーマは「ホームレスの女性の背景は～彼女の物語と自立するまで～」。ホームレスといっても、女性に限るのは難しいのでどうしましょうか？
- みず : ほくだけでしゃべるのは不可能と思ったので、多くのプロフェッショナルに来ていただくことに。「女性支援にホームレス支援のテクニックを使えるよ」ということで、支援者に参加してもらいたいのではないかな。
- くぬ : 調査結果をみると、女性は野宿者の割合が少ないですが、その理由は？
- みず : 女性は戻れる実家がある。男性より確実に戻れる確率は高い。また、家事をしたり介護をしたり。主婦業という働き方も世間に認められている。外国では主婦業という概念は希薄で、日本は特別なのかも。それに比べて、男性は特に二男三男になると、実家には戻りにくい。働かないで実家に住むことも難しい。野宿の女性は少ないが、そのうちのほとんどは野宿地でつれあいと暮らす場合が多い。テント生活の現場では、女性はテントをあずかり、自然と男性が集まってコミュニティをつくっている場合もある。
- くぬ : 一人で生活する女性は少ないのですか？
- みず : いるけれど、とても少ない。あらゆる困難をかかえた女性がひとりで野宿というケースが本当にきびしい。いずれにしてもメンタルヘルスとの連携は不可欠になってきた。男性でもアルコール依存やギャンブル依存で入院が必要な人が多い。病院のソーシャルワーカーのお世話になることもけっこうある。シンポジストの中で、益子さんは野宿現場で幾重もの困難をかかえている人のお世話をしている。織田さんはそうした人の受け皿施設を動かしてきた業師。森本さんは、元証券レディで、バイタリティのある人。キャリアを生かして顔が広いので、いろいろな人とつながって地方都市で支援をしている。そのへんよくしゃべられると思う。
- くぬ : 横田さんは、フェミニストカウンセリングの専門コースで講義をしておられましたが、婦人保護施設の入居者の多くが子どもの頃に性的被害にあっているという趣旨の話をされています。
- みず : 横田さんは本業界のVIP。バイタリティあふれ、そして酒豪だし。
- くぬ : 民間で支援するときの財政的問題も話題にしたらと思いますが、どうですか？
- みず : 小川さんと竹浦さんは日本でも有数の規模のNPOの理事をしている。ホームレスの人々が一時的に住まう宿泊所を多く経営している。いい感じのたのもしい若武者集団。葛西さんはシンポジストの中で唯一研究者。彼女はフェミニストカウンセリングともかかわっており、ほくのところで母子家庭の研究をしている。普段はだんなよりパワーあるお母さんしてます。
- くぬ : なんかも元気でおもしろそうな人ばかりですね。
- みず : ホームレスの支援というのは大変な仕事をしているんだけど、笑いか絶えないメンバー。話すことはシビアな話ばかりですけどね。

・・・以下省略・・・

表にご案内があります。表も見てね





ストカウンセリングという手法で活動しています。フェミニストカウンセリングの考え方の柱は、personal is political です。つまり、個人的なことは政治的なこと、一人の問題はみんなの問題、社会的な問題というふうに、問題をとらえて、女性の支援をしています。

実際に、クライアントさんを前にして、ホームレス問題は他人事ではないと実感しているところなんです。けれども、私たちのグループはその点については弱い。それで、ホームレス女性の現実はどうなものなのかということも勉強したくて、水内先生にお願いしましたところ、快く引き受けてくださいました。水内先生には、女性、支援、ホームレスということ 키워ドに、コーディネートしていただきました。第一線で活躍しておられる、こんなにすごい方々に富山にわざわざ来ていただいて、本当に感謝して、ありがたく思っている次第です。

今回は、まんなかで、こういうふうにシンポジストの皆さんにしゃべっていただくという形をとっています。水内先生とメールをやりとりしていつも感じるの、ぶっちゃけトークなんですね。私も大阪の人間ですけども、ここで、シンポジストの皆さんに、ぶっちゃけトークをしていただく。私たち、聞く方もぶっちゃけ質問をする。そして、お互いにリラックスして、やっていくことが、明日からの刺激になるし、ヒントにもなると思います。堅苦しい場では頭に嵐が吹き荒れませんが、嵐が吹き荒れるような、そういうリラックスした場にしていきたいなと思います。

司会 はいそれでは、たくさんのシンポジストの方々のお話を早く聞きたいとおもいますので、マイクの方は水内先生にバトンタッチします。

0



## シンポジウムの主旨

大阪市立大学都市研究プラザ 水内俊雄

水内でございます。座ったままで、申し訳ございません。今、司会された宝田さんは私、富山大学のときに教えた学生さんですし、冒頭であいさつされた柵座さんは、旦那さんとは富山大学時代の同僚で、うちの嫁さんの

方がより親しかったという関係もあり、柵座さんも大阪の方だったので、わりとお付き合いさせていただいておりました。こちらの会も1996年に結成されたということなんですが、私は1995年の3月まで富山大学にいたんですが、私その後のことをしりませんでした。ときどきお話はお聞きしてはいたんですが、ひょんなことから、柵座さんと2年ほどまえに再会して、そこで、僕、実はこんなこと(ホームレス問題研究)やっているんやっということから、今回のお話をいただきました。

プロフィールが入っておりますけど、富山にいるときは、この建物は影も形もなくて、私は、この富山の運河がどうできたかとかですね、原爆模擬弾が3発も落とされた場所でもあり、それを知らずにたまたま聞き取りをして、そこが朝鮮人飯場であり、多くの朝鮮人がなくなったこと。もつといえ、軍需工場が多く進出した、戦時中の富山の、あるいは東岩瀬の地域変遷というのやっしました。

住友町とか、森とか、千代崎とか、あのへんのローカルな地名ですが、このへん一帯、調査、聞き取りしたことがあります。そういった意味では、隔世の感というか、こんなによく変わったなというほど。富岩運河がキャナルになってしまって、別に名前が変わっただけなんです。

そういうことで、いろんな地域の人の生活史というのを富山の方でかなりやっしていました。大阪に移ってから、大学の使命なんですが、大阪市に1万人にも達するという野宿生活者の問題ということに、大学あげて参加するなかで、富山が、日本一豊かな、まあ実感しましたし、家も大きい、全く正反対の、現象に接しました。これは、学生さんとか院生さんとか、若い人いますので、しばらく取り組んでいこうということで、10年位ホームレス問題ということにかかわっています。

今回お願いした方々は、10年間で色々全国でお会いした方で、すぐに声をかけられる、電話一本で、メール一本でお願いできるという関係で、お呼びさせていただきました。

ただ、女性ホームレスということに関しては、まあ、野外に住んでおられる方、普通、調査をしますけども(女性野宿者は)3%から7%という程度の値ですので、全体の1割もない方々なので、僕も実際、現場でお会いする経験はそんなにありません。お会いした女性でも、3人は、女性と主張している女性でした。僕には断片的な知識しかありませんでしたので、今回のお話で、ホームレスと女性ということで、私一人では何も話しができない、お会いした方の説明をして20分くらいで話が終わる

など思っています。そのあとの支援として、いろんな広がりに関してはですね、まあ特に、今日もお話いっぱいいただくとお思います、本当にDVとかですね、家庭の家族の困難、家庭生育歴の困難ということで、非常に大きなウェイトを占めてくる問題ですので、ホームレスという一般に思われている現象よりもはるかに広い根を持っているのではないかと思っています。

本日は、そういうところで、施設でケアされるとか、あるいは本当に一人でされているというような、様々な支援の活動をしている方々に、お集まりいただくという形をとってみました。最初に、婦人保護施設の横田さんにお話いただくというのは、やはり、日本のホームレス問題の一つの特徴ですが、女性相談センターがあっても、男性相談センターがないとか、母子寮あっても父子寮がない、法律的な整備ってというのは、女性／婦人という言葉で、早い時期からあったと。そのことが日本で女性ホームレスが少ないとはただちには言えないですが、あと、主婦という職業があったというのも一つの原因かなと思うのですが。しかし、そんななかで婦人保護施設といういわゆる伝統のある、売春防止法とも絡みますが、そこで、長らく活動されてこられましたので、婦人保護施設というところの施設のサービスとを知るのには重要かと思っています。地方都市にいますと個人の力、個人のネットワークは広がっていただけますが、都市にいますと、やはり施設とうまくお付き合いするかどうかというのは如何に重要かと思っています。施設の持つメリットというのは、やはりあると思います。そこで蓄積されたケアとか、ネットワークとかを、十分利用しきれないのは日本の福祉の現場の実態かなと思います。NPOとか、個人で走っていると、本当にしんどいことがおきますので、こういう施設のネットワークをやはりここで知っていただいて、そのもつポテンシャルというのを富山でも生かしていただければと思っています。

その次には、今池平和寮の織田さんですが、織田さんは業務で夜にしか来られないので、彼の熱き信頼を勝ち得ている同僚の高市さんにお話いただきます。この救護施設は富山にもございます。男性だけですか？富山は、こちらの救護施設は、女性も入っておられます。女性が入ると本当に救護施設がなごむというかですね。ホームレス支援施設も、女性と一緒にやるとなごむだろうなと思いますが。大阪は男性中心の施設配備をしているなかで、女性の方もケア、支援されているというところで、これも施設のこうポテンシャルというのを知っていただきたいなと思ってお話をいただきました。もちろん、富

山にも救護施設ございますのでそのへんの絡みで、聞いていただければと思います。

その次は、東京からきていただきました。NPOのSSSの竹浦さんをお願いするわけですが、こちらも、NPOでございますが、東京のかなり特殊な、首都圏のまあ一つのホームレス施策のなかでも、無料低額宿泊所というのをですね、大阪に比べたら、大阪は施設、保護施設が代替するのですが、東京では、無料低額宿泊所というのが、ある意味で受け皿になっている、それは言いだすと色々あるんですが、その中でですね、NPO法人の中でも日本でも一番大きい、4,000人位ですかね？施設に入所されている、女性専用の施設も持っておられます。竹浦さんは、そこの担当理事ということですよ。4,300の入所者ございますけど、5%の入居者、200名ほど、いろんな支援をされているということで、民間セクターにおける支援のありかたというの、学んでいただければと思っています。

その次はですね、益子さんという方です。ホームレスされている、野宿をされている方に大阪市の巡回相談員として関わられている方です。富山ではまだ、巡回相談員という制度はないかと思いますが、全国でもいくつかの都道府県ではそういう制度を入れておまして、あちこち、日々、夜はあんまりないですが、昼間、野宿されている方に、外に出向いて、お話しにいつて安否確認やニーズを聞きに行くことをしていますが、それを最初に日本ではじめたのが大阪市なんですね。1999年にはじめられています。益さんも早い時期からはいられて、主に現場の精神障害の精神疾患あるケースを担当されていますけれども、その中で野宿の女性の方も色々繋がられています。基本的には、現場での見守り支援から、施設や他のサービスにつなぐというですね、医療の方ですかね？そういうことされておますので、こちらの方のつなぎ方を学んでいただけたらいいかなと。どういう風にお話されたいかなとかいうあたりも、やっていけるんじゃないかなとおもっております。

森本さんは徳島から来られました。徳島市は県庁所在地でもありますし、おひとりが中心となって、いろんなネットワークを使い倒してですね、言葉おかしいですね。本当にうまいことやりながら、しかしときどきへこみながら、やられていますけども、たぶん、富山では徳島のお使いになられている社会資源のことに、親近度が高く、地方都市の先進例としていいのではないかなと。

最後に、葛西さんは、うちところの都市研究プラザの特別研究員なんですが、ちょっと、今日、過労で、勉強しすぎて、入院されて、こられていません(すべての

文字起こし、ありがとうございました)。代わりじゃないんですが、後ろにすわっておられます、髪の毛の長い女性がおられますが、丸山さんという京都大学の院生です。女性ホームレスのことで10年くらい調査されていて、こちらのメンバーとも知っておられるかたもおられるとおもうので、そのあたり、コメントいただけたらいいかなと思っております。

# 1

## 婦人保護施設いずみ寮施設長 横田千代子



では、今ご紹介にあずかりました、いずみ寮の横田です。時間が23分なので、要点を絞ってお話させていただきたいと思います。やたら資料がありまして、「婦人保護施設とは？」とかね。なかなか、婦人保護施設がどういところかというのは、本当に行政の中にも知らせていないので、何か機会があると山のように資料をもっていくなですね。このほかに、あちらにもちよっと置かしていただいた、私たちが出している新聞とか、事業内容とかを添えさせていただきます。

婦人保護施設は全国で今47施設あるんですが、富山県には、婦人保護施設がないんですね。任意設置ですので、その県によってはないところがありますが、女性相談センターあるいは婦人相談所は、義務(必須)設置ですので、各都道府県に備えられています。法律は、さつき水内先生がお話くださった、昭和31年に制定された、売春防止法と、平成13年に制定されたDV防止法が根拠法となって、設置されています。

なお、この売春防止法は沖縄では、16年くらい遅れて適応になっているので、同じ法律となっておりますが、またそこはそこでの、沖縄としては別の課題を歴史のなかで、悲惨な状態が刻まれているということもちよっとご紹介させていただきます。

このように、対象の女性が、売春防止法による利用と、DV防止法による利用とこの2つの、法律によって入っているために、様々な女性の二分化という問題を引き起こしています。しかし実際、最初のように法律に関わらず、理念としては、女性の人権侵害の回復を支援する。

そして、対象女性は、性的な暴力を中核とする人権侵害を受け、支援を必要とする女性すべてを対象とする。というふうに、東京の5施設がこういう理念と対象女性を打ち出しました。今回は、この資料はのちほど皆さんに読んでいただけたらと思いますが、東京には、5つの施設がございます。それぞれ置かれている・・・(3ページ目になります)5つの施設が書いてございますが、一番特徴があるのが、2番目にあります、慈愛寮です。妊娠中の女性を対象とされ保護され、周産期から出産後、育児指導や避妊指導も行っているということで、ここが今一番婦人保護施設の方たち、女性がですね、女性であるが故の妊娠出産という機能がある中で、女性の侵害が如実に表れている施設であると言えると思います。

今、10代の方がものすごく増えているのと、それから外国人女性など、そして児童養護施設を出た方たちが急増しています。こういったことから、この慈愛寮が婦人保護施設を語るときには、ここなくしては語れないと思っております。

今日は、いずみ寮の資料を中心にお話することになります。ホームレスの女性の尊厳ということで、私、今回の「彼女の物語と自立まで」って、なんかとても素敵にタイトルをつけていただいて。私は今日発表することも合わせて、本当に、彼女たちには人生の物語があり、そしてその物語を生まれたときから背負っているのだと思います。

資料ですけど、もう少しめくっていただいて、今日は特に、ホームレス女性の背景はということで、真ん中の方にあります、いずみ寮の利用者年表報告というこの説明が終わったあたり、これは6月1日現在のことなのですが、定員40名のところ、この時は30名でしたが、現在は、35名です。この在籍の中に、売春防止法の対象者とDV防止法の対象者が入っています。DV防止法の方で対象にして支援している中には、今日現在で子どもたちが3人入っています。その子どもたちの数も定員数に数に数えられるという仕組みになっています。後ほどお話しますが、婦人保護施設の利用対象が女性であるということですが、実は、売防法で入ってくる女性の中にも、お子さんを連れてくる方もいます。よって、お子さんへの関わり、お子さんが抱えている課題というもの、実はこの私たちの支援の中で、大変大きな役割を担っていると私自身は思っています。

そしてそこをずっと見ていただきますと。子どもがいる人が17名、30名中17名、かなりの割合だと思います。11番のホームレス経験者ということで、このときは9名な



のですけれども。私が今回、改めてホームレス経験者として私たちが数字をあげてきますけど、あらためて今回は、じゃあ、どの人がどういう経緯をもって、ホームレスの生活を自分たちがおってきているかということ、調べてみましたのが、次めくっていただきますと、婦人保護施設の事例からということで、これは内容をかなりいじってありますですが、だいたい年齢もこんな人がいますよというご紹介のために、出させていただきました。これを一つ一つ説明していくと、とてもとても時間が足りないのですが、最後の、横田資料 5 というところは、いずみ寮の現況報告なのですが、いずみ寮は今、20代の方が9名いるのです。30代と合わせると13名になるのですが、この20代の方の分析と、実はこのホームレスの説明を私がしようと思っているところと、かなり重なっている部分もありますので、先にこちらをお話させていただきます。

この方たちの状況をざっとみていただいただけでも、現在いずみ寮で生活しているこの方たちが、どういう形でいずみ寮に入ってきたか。そして、その生活史と同時に、いずみ寮の中での暮らしということを見るときに、そこにリストカットとありますが、このリストカット、リストカット、リストカットとあるのは、それは、入所してから、それぞれの方が、1回ないし、2回リストカットをしているということです。

そして、27歳の方については、薬物を飲んでしまうということです。それは薬物というか、洗剤のような、強いものですけれども、そんなものを飲んでしまうとかですね。それから、万引きというものでいますけれども、これも在籍中に万引きをした人、万引き経験のある人というように、様々な反社会的な行為、たとえば、自傷、自分に対して、自分なんかなくていいという意味を含めて、あるいは自分に目を向けてほしいという意味も含めて、こういうことが行われているということです。この下の方に、少し、この9名の方の中で、ざっと拾ってみました。

暴力を受けている方がこの中で6名、風俗で働いてきた方が5名、ご自身が児童養護施設を出た方が4名、この9名の中で、すでに子どもがいるかたが6名、じゃあその子どもたちがどうなっているかという、児童養護施設、あるいは養子縁組で3名とかですね、というようなこんな数字が出ています。

また、この方たちの特徴が、起きられない、食べられない、お掃除をしない、何もやる気がでない、将来への展望希望がわからない、自分なんてなくてもいいというような、大変、ナーバスで先の見えない状態、それから自立支援プログラムが中々先に進んでいかない。こう

いった混沌とした中でこの9名の方を支援しているということが、必要ですので、こんな方たちが若いなかで、集団の中で暮らしているということで、様々な問題が起きています。そして、もとの方に移らしていただきますけど、そういったホームレス経験者の生活経緯ということで、やはり婦人保護施設に入っている方たちの、これはホームレスの生活を経験した方を取り上げているんですが、先程の9名の方と照らし合わせてみると、どの方も、成育状態が劣悪であるということですね、そして成育環境あるいは養育環境ですね、親の養育環境あるいは離婚であったり、親からの暴力があったり、親が死亡していたりというように、難しい養育環境の中で、育てられてきている、育てられるというか、むしろ、年齢は経てはいきますけど、人としてとか、女性としてとか、そういう意味の学習というのはほとんどなされない環境の中に、置かれてきた方たちという風に思っただけであればいいかと思えます。

それから一番大事なことは、女性であるということですよ。圧倒的に、女性「性」であることによる、性的な暴力、性的被害を受けている方たちが多いです。それからもう一つ、これは売春防止法ができた当初と、あまり変わりはないのですが、障害ですね。私の方から提示させていただいた1番の方から、14番の方まで、括弧で少し書いてございますが、知的障害であったり、障害があるけど、手帳を持っている方と、手帳を持っていない方、それと発達障害があったりですね。非常に知的な障害で、様々な理解を十分にしえないことから、社会の中ですごい生きづらさを感じている、とても被害にあいやすい、判断力も未熟ですし、そういう方たちが、結果的には、社会の中から、どうしても、適応できなくなって、生活をご自身ではできなくなって、まあ、施設に入ることが多いわけです。この障害の問題は、売春防止法ができた当初の記録をみても、大変精神の方、それから知的障害がある方たちが数字的にも多くみられています。そんな障害も、生活のしづらさが、やがて、ホームレスの生活に繋がっていったのかなというような部分を感じております。それから、もうひとつは、暴力ですね。本当に婦人保護施設の利用者のまあ、これは、数年前にとった統計ですけれども、50%が暴力を受けているんですよ。福祉施設のなかで、利用者の50%が暴力を受けている施設なんて、他にはないと思えますね。その辺が、私たちが社会的なその、培われてきた構造上の女性差別、女性支配のものが、一番、弱い方たちのところに如実に表れているのだなということを強く感じます。

先程お話ししましたが、女性「性」ですが、子どもがい

っしゃるということで、その、子どもの親ですけれども、ほとんどの方が、もちろん認知というか、認知どころではなく、相手が不明な男性である妊娠出産という経緯がすごく多いですね。そんな中で、この14ケースをださせていただきましたが、私たちは、そのホームレスという中で彼女たちがどう生き抜いてきたか、ここを私たちはきちんととらえきれてないのですが、ちょっと折に触れて、彼女がそういうホームレスに至ったのかなどですね、ホームレスをしている間、どういう暮らしをしていたのかということ、今ぼちぼちとみえています。実際は、そんな中から、たとえば、食べるものも、なく、一週間位、物を食べられなかったですね、それからお腹がすいて、それでお金がなければ、物を買えないので、そのわずかなお金のために、非常に安いお金で、体を売って、売春をしながら生きてきたとかですね、あるいは、ちょっと声をかけられた男性との同棲。自分の力では、生きるということがとてもできないという方たちが、であった男性と生活をともにする、まあ同棲ですけど、そういう中で、本当に物のように扱われたり、暴力を振るわれたりというようなことが起きています。

私たちが気になるのが、ホームレスという中で、この、3ページに挙げた、11番から14番の方たちですが、漫画喫茶とか、ネットカフェとか、そういうところを利用しながら、男性に依存していたり、売春をしたりというような現象です。ここは、今までなかった、形の生活形態なのですね。この中で、本当に日々をどう生き抜くかというようなことをあんまり危機感がなく、過ごしているというのが、私なんかは、聞き取りをするなかで、感じることです。危機感がないということは、自分の存在にたいしても、それだけ意識化されていないということで、先程いいましたように、起きられない、食べられない、ようするに無力な中で、「自分がどうなってもいい」やみたいな感じになってしまっているのかなという風にとらえられます。改めて、数字的に見ますと、ホームレスの経験をしている方たちが、30名中、この漫画喫茶等も含めると、14名、いずみ寮というたった定員40名の女性の中で、44.6%の数字を占めているということなんですね。これが、私たちが利用者の方とお話するんですが、本当に、自らをどう生きていくかがわからない、私が悪いから、私がバカだから、私はこれしか生きられないから、というように、自虐的になったりしたりですね、転々と売春を繰り返すことで、自分はきたないからだであるとか、それから、まともに生きられないからだというような屈辱的な経験を通して、自尊心をどんどん奪われていくんですね。そんな中で、私たちが唯一、いえるのは、あなたの責任じゃない

よ。あなたが悪くないんだよ。あなたを守れなかった社会が悪いんだよという風にいうんですね。あなたの子どものときに、そこから逃げさせたかどうか、子どものときにそこにいるしかなかったじゃない。というようなことをよく話します。

特に、最近顕著になってきているのが、暴力の中の性暴力ですけれども、幼い時から、十数年にわたって、実の父親から性暴力を受け続けていて、更にそのあと、父親から逃げるために、早く別の男性と、ということで結婚し、そこでまた暴力をうけ、そこから逃げ、また別の男性と出会い、またそこで暴力をうけということで、非常に複合的な暴力を受け続けている女性の姿が顕著になってきました。何人か、母親が死んでから、その性的対象に子どもがなっているということがいずみ寮の中でもいくケースもあります。その方たちの精神性の回復ですね、どうしたらいいのか。私、施設のなかで、それだけ専門的な知識が整えられているかという、ととてもとても力が及ばないんですね。こうやって、主催していただいている、カウンセラーのかたたちのお力を借りながら、心理士の力をかりながら、支援をしているところですけど。

一つは、厳しい事例ですけれども、4歳くらいから、父親の性暴力を受けていたのですが、自分が生理になったときに、妊娠するからやめてほしいという、殴られて、結果的にはそれを受け入れざるを得なかった。父親から逃れるために、結婚したが、暴力を受けた。そして2度目の結婚は、すごく年下の男性で、すがりつくように結婚したと言っていました。また、非常にすさまじい、暴力で、たとえば、ベンチで歯をぬかれたとか、肉体的な暴力がひどいんですが、そういう中で彼女が生き抜いたというのは、自分自身を解離させながら、その痛みを乗り越えていったというような、ことを話してくれました。実は彼女はものすごい万引きをしていてですね、盗むものは化粧品なんですね。だけど、一切、つかわないんですね。そのつかわない、膨大な化粧品の理由について、精神科の女性のドクターに相談したところ、「自分が女性として、生きていく証を自分の中で、とどめてきた結果ではないでしょうか？」という回答をいただきました。また、彼女自身は、「ずっと不安の中で侵害されてきたので、自分が安定した中にいると、生きていけない。だから、自分を危険な不安などうしようもない中に身を置いて安定を保っているんです」と、彼女自身がこういったんですね。そんなことで、私たちが、この性暴力がなんとか女性たちを救いださなくてはならないし、性暴力がない社会にしていかななくてはならないし、もちろん、暴力は男性から女性じゃなくて、女性から男性というのも

ありますし、男性への性的な暴力もありますし、そういう意味では暴力のない、社会、暴力をなくす法整備とかです、ものを期待していきたいと思っています。

ちょっと話が少しそれてしまいましたけれども、たぶん、まだまだこの彼女の中で、信頼関係が構築されたところで、少しずつ、話を聞いていけば、もともと自分が生きるか死ぬか、食べるものがあるかないかのなかで、更に重ねて、性的な暴力を受けてきたのではないかなと思うわけです。それからDV(防止法)で入ってくる方たちのなかにも、本当に性的な暴力の方たちが、暴力の中にも、身体的、経済的暴力と色々ありますが、性的な暴力を受けて入ってくる方たちが大変増えています。さらに子どもへの性虐待も増えています。父親からの性虐待という数が、全国シェルターネットの調査からも上がってきていますけども。今日、私も、他の方たちのお話については、いろんなところで生きている女性たちが、どういう風に、どういう対応をされているのか？ということについて興味を持っていただければと思います。ちょっと時間がないので、もうちょっと話したいことがあったんですが、とりあえず、こんな報告にさせていただきます。

司会

すいません、参加者の皆さまにお願いなんですけど、お手元の資料の、質問シートというのがあります。質問シート括弧、何々さんへの質問という紙がはいっていますので、シンポジストのみなさんのお話を聞いて疑問に思ったことを、記入してください。

水内

時間節約のために、質問時間については、質問用紙を介してですね、後半の時間でディスカッションさせていただきたいとおもいますので、質問用紙をお使いいただいて、交流を図りたいと思っています。高市さんお願いします。

## ■ 2

救護施設今池平和寮

高市里美 (織田隆之の代役)

すごくきれいな標準語から、いきなり大阪弁へ変身し

まして、どうもすいません。

大阪の今池平和寮っていう、あいりん地区のちょっと近くにある施設からきました高市と申します。本当は紹介文にあります、すごい人みたい書いてある織田さんがくるはずだったんですが、彼は夜だけということなので、昼間の方担当させていただきます。

今池平和寮の取り組みという素晴らしい冊子がありまして、これをみていただいたらすべてわかるという感じなんですけど、せっかく来ましたので、さっさといかさせていただきます。今池平和寮は1990年開所しています。救護施設なんで、なんらかの生活に困られた方が誰でも入所できる施設です。それで、私も、その現場というには、本当にほど遠くて、施設っていうのは、いいところでして、入れば、ゴハンは3食、食べれるし、お風呂は入れるし、洗濯も勝手やし、おこずかいも少々もらえるし。と言う風に私たちは、現場の人というよりも、現場から抜け出た人ですね、ホームレスの何々さんというわけではなく、今池平和寮の何々さんという方に、日々接しているわけですので、本当にNPOさんの活動とか、益子さんの現場の本当に相談している方とは、比べ物にならないような、ぬるま湯の中で支援をしているなとつくづく感じています。まあ、その中で、やっとな、今池平和寮で何々さんと呼ばれる、ホームレスの方たちが、ほっとされて、「これからどうしようか？」ゆっくりして、お腹も膨れて、体もきれいになって、考えていただいて、それから、自分はどういうことをしたいのかなと感じた時に、それをお手伝いするという役割を果たすのが、本来、救護施設の役割かなと8年間くらい勤めて感じていることとございます。

まあ、何らかの理由というのは、5頁の下の方に、赤枠でくくったところに、書いてあるのが、高齢者、精神、知的、身体障害者さん、アルコール、薬物依存症、もちろん女性の方でしたら、妊婦さん、DV、それから自殺未遂されて紐もったままくる人、首つってきはったり、珍しいと言ったら悪いですが、両目が急に白内障になられて、目が見えなくなって、どうしようもないっていつて来られたり、夕べも一人6時にこられた方は、アパートの家賃が支払えなくて、追い出されて、どうしようというような形で、緊急入所という形で来られています。

ホームレスになるには、それぞれ、その人の理由があるわけで、精神をお持ちだったり、自分では精神とはおもってないけど、どう見ても、精神やだなあというような、感じていろんな理由があるんですが、その時点ではわからない。それで今池に入られて、だんだん医療に繋がったり、福祉に繋がったり、ケースワーカーさんと相談したり、という中で、その人のことが段々わかってきて、



その人の将来について、一緒に考えていけるという、まあ、ゆったりとした時間が施設という中では流れていて、それが一番、施設の強みです。食べるに困らない、というのが施設の強みかなと思います。

その施設を縦にして、入所者さんを人質にして、いろんなことをやってきたのが、本来くるはずだった、織田という人です。「もういれたらへんで」とかですね、いろんな話をしながら、またその得意な夜の繋がり、病院とつながり、地域とつながり、色々こう、かけひきですね、それを駆使して、実際本当は、自立できないような方々をどんどん自立させて、その人本来の生き方をさせていくという、やりかたは、どうかと思う時もありますが、その人が「一回一人で暮らしてみたい」、「一回畳の部屋で、ちゃんと自分の居場所で楽しく暮らしてみたい」という人の声には、すぐ応えている人という面では、とても尊敬できる織田という人でございます。

それでは、まじめに、施設の紹介をさせていただきます。うちは、福祉事務所とか、病院とか、警察とか、益子さんとことか、いろんなところから来られます。定員は60名で現在は17歳から84歳までの方が計65名入っています。定員60名より多いのは、緊急一時の部屋として、男性と女性1名一部屋ずつお部屋を設けていますのと、居宅訓練というのを、寮の近くにアパートを借りていて、自立するのは、すぐに難しいなどという方を半年間そのアパートに入ってもらって、半年間でいろんな生活訓練してもらって、アパート自立に向けて練習するという趣旨のアパートを借りていますので、その方の分の4名分が定員よりも多くなっています。「居宅で、半年一滴も飲まなかったら自立させたってな」という、福祉に対するその言い訳といいますか、印籠といいますか、そういう風にも使われている居宅訓練があります。

女性の方8名入所されていて、今池平和寮の特徴というのは、この資料の3頁から7頁にかけて、ずっと書いてあるのですが、とりあえず、回転率が早いというところが、一番の特色です。回転率というのはその、入所してから退所されるまでの期間が短いということですね。一番早い人で、1週間とか、平均3カ月とかで出ていく方は出て行かれます。長い方も、開所からずっと入っておられる方もおられるし、入所して14年たって、自立されたというか、自立アパートに行かれたという方もおられます。それで、自立された後、私たちの仕事は一体なんなのか？自立してバイバイやったら「あかんやろう」ということで、なが〜今池平和寮と繋がってもらって、今池と繋がりがながら、細々であっても、自分らしい生活を送っていただけるように、見守り続けていけるというのが、

施設の制度に守られお金があるというところの強みを生かしながら、長く関わっていけるというところで、やっているとあります。

1999年から敷金支給が始まったということが5頁の真ん中に書いてありますが、今まで施設入所されても、その中の小遣いから、こつこつ、アパートの敷金をためて、でないと出ていけなかったんですが、65歳以上の方とか、就労の不可が出た方は、アパートの敷金が出るようになったので、比較的簡単にアパートに移れるようになったということと、後、2002年から、うちの方が通所事業を始めたということで、自立される方がですね、ぐんと増えました。

4頁の下に、通所事業の説明を書いています。施設に通所させて、生活指導、生活訓練、就労指導とか書いてありますけど、ほんまかなというの、自分で読んでみて、こんなんしてんのかなと思うわけですが、まあ、通所事業の説明としては、そうなんでしょうけども、今池平和寮としてはですね、生活訓練させてという問題じゃなく、遊びに来るといのが主です。どういうところに遊びにきているかといいますとね、10頁を見てもらいますと、なごみというお部屋をひとつ自立の方のために作ってまして、一人暮らしすると、寂しさゆえにパチンコにいったり、お話相手がなくて、ちょっと気持ちが鬱になったりするわけですが、朝7時から夜の7時までずっといつも、ここには来ていただいてですね、あの施設の中にあるんですが、この部屋だけは、自立された方を優先的に入ってどうぞとなっていますので、かえて今池に入所されている方の方が小さくなっているという形の部屋になっています。10頁の下の写真の前から5人目に映っているのが、本来くるはずだった織田さんです。一応紹介させていただきます。

ここにあるなごみの部屋では、10時から11時、コーヒータだで飲めて、今池平和寮の日課とか、行事とかには自由に参加してもらい、お洗濯も自由に洗濯器をつかってもらって、洗濯代助かるし、お風呂も自由に入れるし、時間は決まってるけど、入ってもらったら、ガス代助かるし、行事とかある程度、お金のかかるものは、ある程度だしてもらいますが。その自立された方だけで、旅行にいかれたり、カレーの日とか、お弁当の日とかも作って、何かと月に2〜3回はこの部屋で集まってお話をするという風なまあ、さみしさ解消をしています。

しかし、それだけでは生活できないわけで、大事になるのが、金銭管理、服薬管理ということが大きな位置を占めています。どうしても、ホームレスされてた方で、金銭管理できない方、お金もらったらその日のうちに使う

方が大変多いですので、その分はつかんで、家賃、光熱費、どうしてもあかん人は一日千円ずつ取りに来てねというふうに。比較的寮のすぐそこに生活して下さっている方が多いので、千円とりにくるときに、顔色みたり、生活の状況みたりできるというのは、こちらの安心もあるので、一日千円から一週間に1万円、2週間に2万円くらいの範囲で、金銭管理をして、もし何かあったときのために、お金を預かったりとか、している方もおられます。

服薬管理としては、精神の方が、自立されるときに、どうしても服薬をしなくなると、「かくっ」といくパターンが多いので、お薬を取りに来てもらう、アルコール依存の方には、その薬を飲んで、お酒飲んだらしんどなる薬、抗酒剤ですが、それを毎朝寮に飲みにきてもらう。それだけではなかなか無理な方は、朝ごはん食べて、お薬のんでもらって、食事つきでお薬のんでもらうという形にしてみます。このほか、朝昼晩今池で食事を食べてもらって、その都度、お薬飲んでもらって、それでも、アパートで生活してもらってという方もおられます。救護には、ヘルパーさんを入れられないんですが、自立されるとヘルパーさんいれますので、ヘルパーさんの調整もしていて、ヘルパーさんをお願いして、通院とかお願いしている方もいますし、まあそれができないヘルパーを頼めるぐらいの方ではないかたは、今池平和寮から送迎するというサービスも行っています。通所事業ということで、参加していただけるのは、一応、2年間なんですけど、2年過ぎてもあたりまえみたいに、皆きてはりますし、うちも別に2年たったからそれではねという形ではなく、2年たったあとはボランティアという形で支援を続けています関係上、やっぱり、自立された後に、失踪とか亡くなるとか、そういう方が非常に少ないという感じで続けることができているんじゃないかと思っています。今池が服薬管理、金銭管理という支援をしているから、福祉事務所の方も、病院のドクターさんも、「一回自立してみましようか？」という形で、了解をくれるケースが多いというのも一つ、大きなことじゃないかと思います。施設としての大きな役割をはたしているかなと私としては感じているところです。

今日は女性のことということで、女性10名、男性50名で、基本的にはそういう風になっているんですが、今、女性8名おられて、水内先生から和やかなという風におっしゃいましたが、和やかだとおもいますね。女子高とか経験された方いるとおもいますが、スカートめくって仰いだりすると思いますが、男性だけ、女性だけというのはどうかと。そのかわり、恋愛事件・・・事件というのではない

ですが、若い方が入られると、若い女の子、妊婦の方が入られると、比較的若い入所者の方は、必ずといっていいほど、恋愛心をもたれたりとか、たとえどんな方でも、むらむらしてきたとかね、色々があると、職員に言われて来られたりですね。「ああやばいかな」とかね。結構年いった方でも、恋に落ちられるかたもおられるので、じゃまくさいなあと感じるときもありますね。言うたらあかんですが、今のカットで。すいません。

やっぱり、あまり施設の中で、「いちゃいちゃ」されると、他の利用者さんが、あの人も、「ちゃっちゃ」していますといっただけなんですけど、外でやっと思っんですけど、お金がないし、みたいな感じで・・・。身体障害者用のトイレの中で、ハグとかされると、ちょっとね、えーとおもうんですが。本当に、そういうこともあるんですよと水内先生にお伝えしたかったんですけど。

男女いますので、夫婦の方も、同時に入所されることもあります。つい最近では、夫婦でこられました。アパートに住めなくなった。お金がなくなったからって。妻の浪費ぐせで、奥さんのお金使いが荒いから暮せなくなったんです。夫の方はかなり認知症と肩麻痺があって、奥さんは浪費家だけあって、きれいで、化粧ぼっちりされていて、イヤリングとかされていて、やっぱりなあ職員と言っていました。しばらく入所されて、とりあえず、施設に奥様はかいがいしく、夫の部屋に通って、その洗濯ものを一緒にしたりとか、食事の時間ですと奥さんが声をかけにいて、食事につれてこられたり、ほのほのとした時間が流れてですね。奥さんにもしっかりしてくださいね、金銭管理してくださいよってということで、めでたく2人そろって2カ月ほどで、自立されたんですが、最初アパート入られてから奥さんが借金されていることが、ぼちぼちわかってきですね。弁護士さんとか、いろんな力を借りてですね、ようやく今池で、奥さんには生活費を渡す、旦那さんには、認知症がありながらも、年金をもらっている方で、これは俺の金やという意識が強い方なので、旦那さんも1万円お小遣いとしてわたして。まだ3日しかたっていないので、今後どういう風になっていくのかなという風におもっているのが新しい事例ですね。私が話すとも明るくなってしまっ、悲壮感がないのですが、そのつど、その方たちは本当に悩んで、施設に入られているわけで。

長い付き合いの具体例としましては、平成17年6月に入所された女性の方で、その時はお名前Kさんとおっしゃんですが、本当はKさんではなくて、名前も忘れたとおっしゃってんですが、今現在、70歳なんですけど、その方は56歳の時からホームレスになられていて、病

院とか、他の施設とかを転々とされてですね、そのつど、自主退寮とか自主退院を繰り返して、支援される場所を転々とされて、ようやく 65 歳くらいに今池平和寮に辿りつかれて、そのときKさんだったんですが、よくよく調べると本名がわかって、それで住所設定することができて、寮に入所されていました。そういう海千山千という方ですので、寮の方たちと、色々ともめごとが絶えずありまして、たまたまた半年前に、先程申し上げました、居宅訓練に移動することができましたので、半年間様子見て見ようかと。居宅のいいところは、途中でケツわるというか、失敗したら、今池に戻ってこれるというのが一番安心感があって、周りの人たちも、居宅ってどんなところかなとみているんですが、居宅に移ったその日に、ええ気持ちになって、1 杯のんでしまって、お風呂の水あふれてしまって、大洪水になって、病院に運ばれるというケースもあるんですが。数々の失敗を繰り返しながらも、居宅訓練に入っている間は、何があっても今池平和寮に帰って来られるということもあって、結構人気のシステムになっているかなと思います。

この女性の方も、居宅訓練半年して、やっとアパート自立することができました。今までの生活から、ご自分では金銭管理はとって無理なので、こちらで金銭管理をしてたんですが。旅行者さんになって、「りゅーさま」といって、毎日そこへ行って、その人にふところにお金を突っ込む生活が始まり、もうとてもじゃないかど無理やねと思いつつも、生活されていたんですが。ちょうど、脳腫瘍という病気になられて、小さいものだったんですが、ちょっと痴呆がすすんでしまって、それでもう諦めようかって、アパートに暮らせてよかったやんか、せっかくやし、戻ってこうかということで、せっかく 18 年にアパート自立されたんですが、約 1 年半のアパート生活を終わられて、ちょうど施設に空きがあったので、現在今池平和寮に入所されています。入所されても、基本的な性格は変わらないので、あちこちぶつかられるわけですが、足も悪くなってきて、認知症もかなり進んだしということで、次ちょっと老人ホームの方に移る計画ができていますけども。

ずっとあの長い付き合いというのは、これは、繰り返したと思うんですね。若い方は、妊娠して、子どもをうまいこと預けて、児童養護施設に預けて、それでまたわが道を歩まれて、また妊娠して、また今池にはいられて、夫はまた刑務所に入られて、また子どもは施設に預けて、また自分は新たな恋の道に走るという展開が何度も繰り返されるわけですね。70 歳になってもそれなんでね、20 代、その子は 18 の時にはいつてきた子ですが、この

間 21 の時にはいつてきて、また同じことを繰り返して最近出て行かれたんですけど、若い時はしゃないんですよ。よってくる男も悪いから、誘う子も悪いかなと思いつつも、今池がそこにある限りは、どんななっても、まあ、食べるものにこまったら、うちにはいつたらええやんかというので、そう接しているというこちらとしては心の余裕というか。あっちが安心感というか、本当の意味ではだめなんだろうが、ほんまにその子のことを、ばちばちとして変えられるかというそうじゃなくて、最終的にどっか頼れるところがあるという場所があるというのが、今池平和寮の責務というか、任務ではないかなと思いつつも今日この頃です。

ここは富山ということで、最後に富山関連の方を紹介させていただきます。この方は 54 歳の時、東京の山谷で野宿をされていて、その時一人の男性と知り合われて、その方は 14 歳年下の男の子なんですが、仲良く野宿されていたのですが、いったん奥さんの富山が故郷で、奥さんの方の遺産が入ったということで、富山の高岡というところでアパート生活されるんですが、つつましく暮らしていた生活もですね。でも、8 カ月でそのお金が尽きてしまって、またまた東京の山谷に戻って、またつつましくtent生活を始められたんですが、夫の方が結核になってしまって、福祉につながって、奥さんの方は東京の施設に住まわれることになりました。そこで 2 人ははなればなれになられたんですが、平成 15 年の話なんですが、19 年に、なんでかしらんけど、大阪の西成区で、居宅保護をうけて、男性が暮らしておられまして。なんと奥さんと住みたいと。それは、東京でtentで暮らしていた奥さんと住みたいという希望を出しました。たまたまその話がうちにきてね。遠距離恋愛ですよ。東京にいる施設の奥様と、居宅を受けている大阪の夫ということで、ロマンスがあるわけですが。その調整を台東区と西成福祉としている間に、奥様待ち切れずに、西成に来てしまわれて、夫のアパートに来てしまわれたんですね。これやばいということで、織田さんの手腕で、そのまま妻の方は即今池寮に入所ということになりまして、夫も後を追うように、1 週間後に今池平和寮に入所されて、夫もすぐ、妻と一緒に住むためならというということで、アパートを引き払って、今池平和寮に二人で入所されました。

奥さんの方は、手帳をとるのがいやで、とっておられないんですが、かなり精神で、すごい拘わりもってらっしゃって、トイレとかかも 30 分とかも入っておられるんですが、夫がその 30 分ずっと外で待たれて、なんというか、素敵かな？ようやるなという感じで見てたんですけども、

それであ、半年くらい今池平和寮でゆっくり生活されて、敷金は西成福祉が出して、家具汁器とかは、台東と西成が半分づつ出すという形で、平成 20 年の 4 月にめでたく 2 人で居宅生活ははじめられました。ところが、今年に入ってから、やっぱり 14 歳年下の夫は、浮気をされてですね、その浮気相手が、今池の自立訓練を利用しておられる女性ということで、えらいややこしい話になりました。奥さんの方はとっても夫を信じてられて、「夫は病院にいて、点滴で一晩かかるので、いないんです」とか電話で言うんですけどね、点滴で一晩はかからないだろうと思うんですが、「あらそう?」とかいながら、夫の浮気を全然疑っておられなかったんですが、夫はひどいことに、その妻を東京の施設に返してくるわという形で、浮気の道に一心に走られて、妻を東京に送り出すというそういうひどい状態になった事例でございましたが、今池平和寮というのは、施設という強みというか、それを決して傘に着ず、施設という基盤があるからこそ、皆さまの望むような生活をできる限り支援していきたいと考える施設だと思います。ね、織田さん。以上でございます。ありがとうございました。

水内

どうもありがとうございます。富山県の救護施設も男女の施設で、今ちょっとネットで調べていたんですが、入所平均が 14 年でしていますね。200 名という結構でかい施設ですね。救護施設全国で 183 カ所あって、富山 1 カ所ですが、これを使わん手はないと前からおもっているんですね。大半ぬくぬくされているんですよ。高給とって、と織田さん談ですが。

通所事業でも、一人なんか 20 万かつくという恐ろしい。一億円くらい地域に投下できるというシステムもっているのに、誰も使わへんで、貧困ビジネスとか言われてね、なんか、一番肝心な生活保護施設というのをちゃんとつかわへんのかなという気がものすごくするんですが。そういう意味では、日本の救護施設はまだもう・・・一番、まあ、これは個人技に個人芸があるとは思いますが、リーフレットもこういうふうにして、つくっていますので、また、見学なり、していただければいいんですが。織田さんとはばされたんですね。異なる施設に引き抜かれたんですね。そっちの方の業務で忙しくて今日は来れなかったんですが、ここ、なんか大阪におるような気がしてきましたが。ちょっとトーンを変えまして。変わらないか？変わりますね。今回は東京の方から竹浦さんお願い申し上げます。

## ■ 3



### NPO エスエスエス 理事 竹浦史展

SSSの竹浦です。よろしくお願ひします。

まず、NPO法人SSSのご紹介をしたいと思います。ここにパンフレットが配られていると思うんですが、まずこちらの大きい方のA4判ですね。こちら毎年、情報公開として、法人の全体の内容をお知らせする内容を作っています。最後の方にはデータなんかも載っています。SSSの活動実績がどのようなものかがわかっただければと思います。最初に水内先生からご紹介ありましたが、女性の利用者の方っていうのは数パーセントいても 200 人程度ということですので、すべてを表しているわけではありません。もう一冊、小さい方、こちらのリーフレットがあるんですが、こちらはですね、DV被害にあわれた被害者、当事者のための冊子及び支援をする方々のための冊子ということになっています。こちらは私たちが勉強したいということで、東京都さんの施設、機関で東京ウィメンズプラザというのがあるんですが、そちらの助成金を頂戴しながら、専門家のみなさんにもご意見いただきながら作成したものになっています。こちらもご参考にしていただければと思います。

私たちSSSは、住まいのない方に住居を提供するというNPO法人です。すでに住まいのない方、これから住まいを失うかもしれないという方々、生活困窮者の方々に対して、施設入所を促しまして、そちらで生活支援、就労支援、居宅移行支援などの自立支援を行っています。2000年3月から、東京都の認証でNPO法人として活動して、現在では、首都圏で、東京都初め、周辺の4県を含めまして130カ所の施設がありまして、全体で、4400名ほどの定員があります。このなかで、女性専用施設というのもありまして、こちらは全体で6カ所、定員が115名です。そのほか、女性対応が可能な男女混合の施設というのが複数あります。それで全体200名ほどの女性支援というのをおこなっております。SSSとしては、こういった宿泊所、無料低額宿泊所の運営及び支援活動というのをやっているんですけども、そのほかに、炊き出しとか、巡回相談、それから、最初のきっかけの生活相談ですね、相談センターにくる相

談受付といったようなことを活動として行っています。施設入所以外でも、その前段でも、当事者と関わる法人となっています。

参考資料で、今日は必要あるかどうかわからなかったんですが、レジュメのなかの2枚目に、キーワードと書いた資料がありまして、そちらに、SSSに入る前の方々がある場所にいたか、まあ、SSSだけじゃなくて、ホームレス状態になる前にどんな場所にいらっしゃるのかという、そういったようなことを示している居場所キーワードというのがあります。富山県は、テレビで見たことがあるんですが、持家率が日本で1番だということをきいたことがありまして、この地域のなかで一体どこにそんな方々がいるんだろうとお考えだとおもうんですね。

キーワードの左上に自宅と書いてありますが、こちら、最初はみなさん自宅にお住まいでいらっしゃる、何かあっても、親類宅、友人宅、知人宅というひととの繋がりで、なんとか生活できるというのが通常じゃないでしょうか？ただ、そういった縁というのが切れてきて、借金がどうのとか、人間関係がどうのということになりますと、次にたよるものはお金しかなくてですね、たとえば、ネットカフェ、ファーストフード店、カプセルホテル、こちらではないかもしれないかもしれませんが、大都市圏にはドヤという簡易宿泊というのがありまして、そちらに泊る方もおられます。また特殊な事情があれば、病気の方は病院にいくだろうし、犯罪被害にあわれた方もしくは反社会行為と先程横田さんおっしゃられましたが、そういった方は、もしかしたら警察ですとか、更生保護施設にいる可能性もあるんじゃないかと思います。

だいたい世の中で、ホームレスとってわかるキーワードとしては、公園ですとか、河川、道路、駅なんかで寝泊まりして野宿をしているかたという認識があるんじゃないでしょうか？今言った、公園、道路、駅、というのは、国のホームレス自立支援法案でいうホームレスの定義というふうになっています。その定義に関してですね、欧米では、こういった狭い野宿の定義だけではなくて、自宅含め、ネットカフェ含め、不安定な居住にいる方は、ホームレスだという定義の国がほとんどだそうです。

ホームレスの方っていうのが、女性はとくに、なかなか、先程、男性関係で身を寄せてという話がありましたが、路上でみるということというのは私たちもほとんどないんですね。ではどのように繋がってくるかという、だいたい今、居場所キーワードのいずれかにいらっしゃって、そこからたとえば、福祉事務所、役所の福祉課ですね、そちらに相談がはいった、あとは、警察、病院から相談がはいっ

た、後は婦人相談センターから相談がはいったという形で繋がってきて、初めてその存在を知るんですね。通常の私たちの生活の中ではですね、なかなかそういう方たちを目にしないというのはあることだと思います。後、一番下の右側に、宿泊所というふうにかいてありますが、これは私たちの施設も含め、不安定層の方々が入所されるという施設というの、もしかしたらそこにはいる方は欧米ではホームレスといったような定義をされる可能性もあります。自立するのに、一か月十数万円のお金で、自立ができるかもしれませんが、もしかしたら、そのお金、年収換算しても200万円いかないですよ。そこで、はたして経済的な自立まで、どこまでやっていけるのか、そういったことは、私たちの支援のなかでも課題ですし、国の制度上の中でも課題だと思います。

キーワードその2というところですが、失業、借金、離婚、別離、DV、虐待とこうい風にかいてありますが、失業でいえば、派遣切りということで、マスコミでいま相当話題になっていますが、仕事なくなると同時に、住まいをなくす、それで路上生活に至るというケースも出てきています。このきっかけを見ていくとですね、貧困、経済的な理由もそうですし、暴力がきっかけでとか、先程から横田さん、高市さんが発表したなかにあった、本当に、支援する側にしてみれば、いろんな問題がからみあって、重たいケース、というのが、このキーワードその2=きっかけキーワードなんです。SSSでは、年齢が女性支援でいきますと、10代の後半の方から、70代くらいの方まで、支援してますけど、多いのは、50代60代の方々ですね。病気を抱えている方々というのは、だいたい半分くらい。あとの方々は、実際健康だったり、仕事ができる状態だったりします。ですが、住まいをなくすというのは、決して、傷病の関係だけではなく、当然失業とか経済的な理由も絡むと。ですから、今事例で報告しますが、様々な状況の方がいらっしゃって、SSSがやっていることっていうのは、公設の施設のみなさんがやっていることよりも、もう少し軽めのケースから、中には様々な重たいケースをお預かりするという感じかなと思います。

具体的にどんなケースがあるかということで、私が支援してきたケースを2つほど紹介します。まず一つ目は、Kさん女性53歳ですね、約3カ月で、アパート転宅しています。DVがもとで福祉事務所に相談されて、SSSにつながりました。DVだったら、福祉事務所では即、SSSに相談してるんじゃないんですね。女性相談センターとか、他の公設の施設さんにあたられて、そこに空きがないですとか、このケースだと、DVだと認定しづらい



というケースについては、SSSを紹介されるというのが多いようです。

この方はそういった経緯で入られたんですが、ものすごく、明るく、元気なですね、どこにでもいるお母さんという感じの方だったんですね。笑顔が素敵で、如何にも前向きそうな雰囲気です。本当に災難でしたねというお話で、入所されたんですけども、入所した翌日には、店頭のパートのお仕事を探してきました、これに応募しますと。そんなに早い落ち着かないタイミングでいいんですかと聞いたんですが、一刻も早く自立したいということで、体も特に悪いところがないということなので、履歴書だして、面接を受けて見ましようかというお話で、簡単に就労もきまっちゃいました。

私たちがやったことってというのは、住まいを提供したことと、あとは食事を提供したことくらいで、後まあ、仕事するのに、パンプスとか、ブラウスが買えないからってことで、生活保護制度の活用はしましたけども、そんなすごいことはしていないんですね。ケースワーカーさんが、仕事も決まったし、後保証人さえいけば、公営住宅いけますよって話だったので、これは、自立は速そうだなという感触がありました。この方、結局、DVの関係で、公営住宅を申し込みをすると、決定通知が元の夫のところに行ってしまうという話がきまして、民間アパートに絞って探しました。ただ、福祉事務所のワーカーさんもすごく熱心な方で、私たちよりも先に、アパートの物件情報というのを探してくれまして、ご本人もいってみようということで、私たちが同行して、物件を決めて、後は、敷金礼金は生活保護の制度を活用して、申請をして、だしていただきました。最後に私たちは、引越しのお手伝いをして、それで、よかったねというお話になっています。

このケースは、正直、すごく稀な成功事例だといえます。健康で、意欲もある、そしてDVで抱えられているような心の傷というのでもまあ、ご本人は、深刻だったかもしれませんが、他のケースの方と比較すると、まだ、自分の中の捉え方は、軽くすんだほうじゃないかなと感じました。SSSでは、この方は、ホームレスと呼べるのかというのもあると思うんですが、先程の居場所キーワードでいうと、ホームレス状態に近いと、住まいを失ったから私たちは支援対象とすると考えています。

お二人目なんですけども、Tさん 61 歳、傷病を抱えるかたは長期利用もついでいうふうにしていますが、この方は、4日ほど野宿生活をされたので、ある意味、ホームレスだったのか……。まあ、そうじゃなかったのか……。という微妙なところなんです。この方は、病気が原因で、お

仕事をずーっとしてない方でした。生活としては、弟さんが、ずっと仕送りをしてきてくれていて、そのお金を頼りに、アパートで生活していた。ただ、弟さんの方が、経済的に陥って、仕送りができなくなった。それで、家賃を3カ月滞納して、強制退去に至った。奇遇というか、本当に、幸運だったねとお話しているんですが、一般の方、同じマンションに住む女子大生の方が、声かけをしてきて、それで福祉事務所にいくことができたんですね。福祉制度も知らないし、ほとんど出歩かなかったという自分が、そこを知れたということがすごく大きかったと、この方はおっしゃってます。

宿泊所に入所して、生活保護の申請をしたんですが、20代の前半で結核を患って、家業のラーメン屋の2階です。家族が病気とかを他人に知られたくないというような状態で、そこに強制的にさせられた。自分からひきこもったのではなくて、いざるを得なかった。なので、ちょっと社会性というのは養われていない部分があったり、そううつ病という診断で、かなりの服薬管理、見守りが必要な方でした。精神科転院手続きや通院同行というのをやってまして、あとは服薬の補助が必要になります。様々な精神障害の制度の受給者証とか、福祉手帳とか、そういったもの手続きとか、私たちが役所に同行して、取得をしています。この方に関しては、今現在も、在籍中でして、入所期間が2年6カ月になりました。

この方は、最近、すごくテンションが低いんですね。前は、どちらかというと、そうの方が出てて、攻撃性があったり、通っている歯医者さんに恋をして、すごく元気いっぱいという状態だったんですが、歯医者さんがあまりつれなかったのか、すごく落ち込んでしまっていて、そこから無気力になった。お話を私もよくしているんですが、最近、意欲低下のために、お風呂に入らない。お風呂入ろうよ、またいい人見つけようよと言っていますが、私なんかいいのよって話で、なかなかテンションがあがってこないですね。服薬の方も継続してますし、看護師、ドクターの話聞いても、特に変わりないって話です。どうしたらいいのかという部分で正直悩んでいます。

ある日、一緒に散歩に行ってみて、2人きりでたまには散歩しようよと出かけて見たら、ご本人は、今までは、ふりをしていたと。頑張って意欲的にいろんなことをしたし、自分としては、無理してきたと。お風呂にも入らない、そんな意欲もないような無気力の私が本当の私ですって、言ってくれました。まあ、そうか、じゃあ今無理して元気だしとか、次の恋探そうというのはちょっと控えて、

様子をみようと考えています。この方、自立支援するときに、地域生活は、ご本人がアパートはいやだといっていて、ドクターの許可も出ていません。この方の生活支援について、私たちが行っていくつもりではありますが、「この方の自立とは一体なんなんだ」というのはすごく悩ましいですよ。このまま誰が一生ささえるのかというもある。適切なものと違う、精神障害者のグループホームとか、病院とかっていう選択肢もあると思う。そういったものを模索しながら、今の生活支援を継続するという以外、いまのところないので、非常に難しいケースだなと思っています。

最後に、無料低額宿泊所についてももう少しお話ししたいと思います。このような活動しているSSSなのですが、無料低額宿泊所というのは、社会福祉法に規定されている、第2種社会福祉事業ということなんです。これは、生計困難者のために、無料または低額な料金で簡易住宅を貸付、または宿泊所、その他の施設を利用させる事業です。根拠法は、たとえば、婦人保護施設のように、売防法とか、DV防止法とかというのはあるわけではないんです。救護施設のように、生活保護法が絡んでいるかというところでもない。法律の下支えがないんですね。

これは、公設の施設というのは、やはり様々な法律に立脚して運営されますし、国からの予算も出ます。これは国が責任をとっているから、そういう形をとるんだとおもいますが。貧困層、生活困窮者に対して、国がどこまで責任をもつかというのは、今、非常に揺れていると思います。SSSとしては、当然頑張っている方のサポートをする、努力をしているから、その人の責任を全うしようとしているから、お手伝いしようというスタンスがあって、その上で、国はある程度責任をもつべきだという、ちょっと中途半端な位置取りをしているかもしれません。

こういった宿泊所は、平成20年6月の時点で、全国に415施設あり、定員が12,940人になります。SSSはこのうち130カ所で4000人程度ってことですので、だいたい3分の1くらいがSSS(の利用者)ですね。ですが、みなさん、こういった宿泊所の存在というのは、なかなか耳にしなくて、どういったものかわからないと思います。それは、先程、居場所キーワードの中にもあったように、路上に出てきて初めて、目に付くというか、出会うことができるからであって、宿泊所もなかなか世の中には出てこない存在というふうになっています。住居としてのセーフティーネットとして、機能しているのですが、制度とか、施策の狭間をどう埋めるか、で、先程からお伝えしているようなケースの方々をどういうふうに支援す

るか？これは、私たちはこれからも責任をもって、考えないといけないですし、一人でも多くの方を助けたいと思っています。ちょっと早口で分かりづらい部分もあったかともいますが。終了します。

## 4



### 大阪市野宿生活者巡回相談室 益子千枝

長丁場になってきて、みなさんおつかれじゃないでしょうかと思ながら…。こちらに来られているかたで、ご自分の生活圏で、路上生活の方をみられたことがある方はどの程度いらっしゃいますか？結構いらっしゃるんですね。

じゃあ、富山にもわりと路上生活されるかたというのはいらっしゃるんですね。駅とか公園とかでしょうかね。その中で女性の方をみられたという方は？やっぱり、いらっしゃる感じですね。やっぱり全国的に路上生活の方あの、比較的女性は少ないのかなあという印象は共通しているのかなと思います。で、あの、じゃあ、大阪市内にこられて、路上生活者をみられたという方はどのくらいいらっしゃいます？

はいらっしゃらないのですか？ひとりいらっしゃる？どこにいらっしゃった？浪速区とか電気や街ですね？じゃあ段ボールハウスを設営しているような場所をみられたんですかね？ご協力ありがとうございました。

私のやっている仕事というのがなかなかみなさんにはなじみが薄いかないかと思ながら、本日は短い時間でお話をさせていただくんですが、なにぶん一方的にお話をさせていただくのが苦手ですので、後からいつばいつこんでいただければとおもいますが。

資料なんですが、簡単なものを用意させていただいておまして、1枚もの裏表に印刷していただいているもの、最初に女性ホームレス問題を考える研修会レジュメというのを作らせていただいております。これにそって少し行間を口頭で埋めながら、説明したり、紹介したりさせていただきたいとおもっています。よろしく願います。

まず、自己紹介的なところからはいらしていただくのですが、私が勤務している野宿生活者巡回相談室とい

うのは、ホームレスの自立の支援などに関する特別措置法、普段見ないので、かんでしゃべれないくらいの法律なのですが、これを一応根拠法にしています。資料の裏面になるのですが、資料 1 というところにつけてある部分です。これも、すべてネットから引っ張ってきているので、みなさん見ようと思えば、いつでもみれるので、全く貴重ではないのですが、一応紹介ということで、つけさせていただきました。もし、興味のある方は、目をとおしてみてください。一応、こういう法律がありますというようなことを紹介させていただいて、これに基づいて、平成 11 年からこの事業はスタートしています。最初は 3 名から始めて、野宿している方のところについてですね、事情を聴くとか、希望を聞く、いわゆる調査的な役割から始まった事業なんです。ただ、そのあと、自立支援センターという就労支援の施設ができたという歴史がありまして、今では、相談員は 30 名を超える、それなりに大所帯になってきています。

私のことなんですが、私は市役所の職員とか、公務員とかではなく、社会福祉法人大阪自彊館という、これが資料 2 の方に、裏面の右側ですね、これもネットからひっぱってきたものなんですが、ネットで検索していただいたらなんぼでもありますが、こういう社会福祉法人の 1 職員で、たまたま、大阪市が、社会福祉法人大阪自彊館にこの事業を法人委託したというかたちで、私がこの仕事についておりまして、私がこの事業に入ったのは、平成 13 年 4 月からです。前職は、巡回相談室にくるまでは愛隣寮という、今池平和寮がきれいなパンフレットをもってきていただいているので、人のふんどしで・・・すいませんが、そのパンフレットの中、の S というところが、救護施設愛隣寮となっているんですが、巡回相談室にくるまでは、ここの職員でした。高市さんと同じようなかたちだったんですが、アルコールの人の部屋で、コルサコフ症候群で、すっかりお酒は抜けているけど、認知症状が進んでいる人と、毎日毎日、屋上で、家族が迎えにくる話を毎日聞いているという生活をしていました。

ついでにいいですが、私の資料がしょぼいのをいいわけにするわけではないのですが、実は巡回相談室というのが大阪市では、秘密部署となっておりまして、一応事務所はあるのですが、場所は秘密となっておりまして、なので、これはネットで検索しても場所はできません。ハローワークに職員募集しているのですが、そのあたりはよくわからない状況なんですけど、そんな事情で、たとえば、7 のところに、詳しく社会資源のせていただいているのですが、ごらんとおり、巡回相談室というのは、地図にはのっていない事務所となっておりまして。このように、パンフレット

を作れない状況なのですね。

私の方の資料にもどらせていただきまして、私は平成 13 年 4 月からこの仕事をさせていただいているのですが、今は 30 名を超えている、相談員が日々どんなことをしているのかといいますと、大阪市内限定、対象なんですね。野宿生活を行う人を対象に、巡回もしくは役所からの依頼により、その人の希望とか困りごとを聞き取り、言ったら、面接なんですけど、その結果、その人にできるだけ、あった脱野宿の支援をさせていただくのが、一番王道な説明なのですが、一番の売りは、それまでは申請主義といって、その人が相談事をもって、役所にこなければ、なかなか情報提供もできないですし、わざわざ福祉どうですかという話もなかったんですが、私たちは御用聞きにいくわけですね。まあ、かえれといわれることもあるんですが、そういった巡回活動というのが新しい、当時は新しかったわけです。それが売りなのですが、最近の現実をみるとですね、役所の方とか、公園管理者の方に、巡回相談が有名になりすぎて、依頼の方が多くなっているんです。

私自身が危惧しているのは、物を言わない人とか、ニーズを持ちながら、表現する力のない人というのが、ちょっと置き去りにされている現実が大阪市にできています。そこを心配している現状があります。その人にあった、脱野宿の支援といっても、社会資源がぎらけていますし、制度も限られていますので、なかなか苦労するところなんですけど、一応仕組みとしては、資料 3、横のところに、書いている部分、図があるのですが、これもよかったです、ゆっくり見ていただきながら、つっこんでいただいたらとおもいますが、これについても秘密の書類でなくて、大阪市、ホームレスの自立の支援などに関する実施計画というのが、ネットで検索したらできてきます、その中の 1 頁をひっぱってきたものなんですが、本当に興味のある方なら、大阪市のホームレスの実施計画、ものすごく細かくのっていますので、この機会に見ていただいたらと思います。そのなかの 1 頁でして、巡回相談というのは、A というところですが、文章 2 行になって、先程説明したような、野宿地で面接を行って、自立支援策につなげますということで、下のフローみたいな図のところをみていただくと、A のところで巡回相談というのができています。

ここで、少しだけ、こちらのほうで、補足したいなと思うことはですね、わかりにくい部分もありますが、A の四角のなかの、巡回相談の次ですね、①、②っていう資格があるところに、①は就労意欲があるが、失業状態にある人、②が医療福祉などの援護が必要な人と大別され

ているわけです。巡回相談で、お声おかけして、聞取りをしていただくんですね。そのあとの、矢印がふたつともおなじところで、自立支援センターアセスメント型舞洲1 というところになっているんですが、まあ、実は、まっせつかく生の人間がきたので、生の話をさせていただきますと、なかなかそうはいかないんですね。自立支援センター満杯やったりとか、人でもそんなに充実していないので、逆に②の人は、巡回の段階でなんとかしろというようになっていまして、①の人をできるだけ舞洲にお送りしているという状況であります。

私の不満は、①の人が四角大きくなっていますが、実は②の人がすごく多いんですね。一見①に見える人も、①の問題だけでは実はすまないという人がほとんどなので、この四角の①のところは、小さくていいのではないかという現実を現場としては感じています。どちらかというと、四角の②、本当は、四角が大きいですよというところの対応に日々奔走しているのが現実です。

私のレジュメの、2 というところの、私が感じる大阪市の野宿事情、大阪市の問題点というところなんですけど、先程、竹浦さんもキーワードとおっしゃっていましたが、ここで話して、次の質疑応答で掘り下げていけたらと思います。これは全部、私の悩んでいるところなので、むしろ、逆に教えていただきたいというところなんです。

上からいくと 20~30 の若年層の方がすごく増えているんです。これ感じているのは 3 年ほど前からということで、ぼちぼち感じてきたんですが、ここ去年の10月の派遣切りから感じてきてまして、若いとか、プラス他地区からの流入というのがあります。最後のお金を握って、高速バスで大阪駅とか、難波駅などバスの駅におりたって、役所があくのをまって、かけこんできましたというケースが増えてきています。案外、高齢の方で、河川敷で小屋をつくっているおじいちゃんなんかは、拒否的な方が多いんです、わしゃいらん、一人で生きる、こういう方はすぐ役所にきはるんですね。きてくれるのはいいんですが、そこで、ちょっと制度の使い方が難しかったり、自立支援センターが 2 カ月待ちで、なんてことが実際はおこっています。

二番目、目に見えない障害や、疾病、( )依存症など、発見と対応がまだまだということです。現場の方とかは、そうそうとおもってくれはるとおもうんですが、とりあえず、難しいのは難しいのですが、ただ、最近の私の中で難しいのが、ギャンブル依存のかた。なぜかという、こんな言い方すると不適切かもしれないですが、入院で逃げられない、用件がほとんどない、アルコール依存だ

と、アルコールの専門病院があったり、内科的に悪くなる傾向が高い。薬物の方は法にふれるので、警察、専門病院などあります。ギャンブルの方は、体にこないの、困る。下手に生活保護かかると、ほっといたら、崩れてしまうというところで、回復が難しいと感じています。

もう一点あげると、同じ薬物でも、シンナーの後遺症が怖いと思います。聞取りのなかで覚せい剤とか、そういうのありませんかと聞くのですが、案外シンナーはききもらしてしまうんですね。子どものころの話なので、本人もあまり気にしていなかったり、聞取り側もあまり気にしていなかったり、最終学歴からどういうお仕事、どんな生活してきましたかという、小学校高学年から、高学年までシンナーを使ってことは、とばされてしまうのですが、集団生活や新しいお仕事につかれりするとき、なんか行動が短絡的、いらいらがきつい、物忘れが若いくせにあるというような人で、よく聞いてみると、小学校高学年から中学生にかけてシンナーやっていたという人が多い。シンナーの後遺症本当に怖いと思います。専門的な話までできないですが、すごく、脳の成長する全段階、一番成長せなあかんとときに、溶けるくすりを脳にいれてしまうわけで、一番気になるのが、小学校の高学年くらいから中学校の時に、シンナーをやっている、注意されない環境に育ったというのが、横田施設長も言っておられましたが、やっぱり、そこが一番気質的な後遺症よりも、その人のその後の生活に大きな影響をあたえているところかなと感じています。

3 つめなんですけど、今までの話からも垣間見れるところなんですけど、発達障害が疑われる人に対する対応ですね。私も何人か、疑いがある方、実際診断までいった方にお会いしたんですが、たしかに、雰囲気やリズムが違うのですが、こんなこといったら生意気ですが、その人のことがわかれば、そんなに対応が難しくない。ただ、わかるまでが大変。その人が、生活保護利用したり、障害関係までの支援を利用したりまでが大変。この中に、もっと詳しい方いらっしゃると思うんですが、平成 18 年くらいから、やっと支援法できて、それまでは、なかなか障害とも認められなくて、親とか地域とかから見放されて、ドロップアウトしてきた、その結果、窃盗などおこして、服役経験が永い人もいるし、後二次障害として、鬱を発症したりするというのが多い。本当に気の毒だと思います。発達障害の方については、社会の責任が大きいと思う部分が多いので、なんとかいい方向にこれから迎えるように、皆で力を合わせられたらと思います。

4 つ目の点ですが、微妙なのですが、障害とか病気

のくくりにはいないけど、なぜか社会生活からドロップアウトしてしまうというひとがたくさんいる。これは、最初の3人のお話とかぶるのですが、一つは、成育歴からくる、私の個人の推測でもありますが、それから引き癖、考え癖みたいなものが、影響してしまっていて、横田施設長のお話にもあったんですが、落ち着いた環境とか安定した環境とか、成功になると、そわそわしてしまって、自分からなぜかそれを壊してしまうというのが本当に多い。これをどうしたらいいのか？高市さんに、どうしましょう？と聞きたくなるんですが。

さっきの高市さんのお話みたいに、すべってもころんでも、お帰りといってくれる施設や、そんなこともあるわいな、といいながら一緒に時間を過ごしてくれる、施設やったり、そこの職員さんがいたくてりということがもしかしたら、お薬でもなく、なんでもなく、一番の対応策なのかなと感じています。ほんまに今池さんには、足を向けて寝られない。いつもややこしいひとを引き受けてくれてありがたく思っています。私たちは、巡回相談として、入口を担っていて、きっかけづくり、生活支援という、施設をもっているわけではないので、できないので、うけてくれるところがないと、本人さんに何も進められないというところがあるんです。なので、みなさんのおかげでやらせていただいているところです。

最後ですが、今日は女性ホームレスに関することというところなんですが、実をいいますと、私たち男性の方が対応多いですし、法人も悲しきかな男性の施設ばかりなんですね。なので、女性といわれて、これというみなさんに喜んでいただける事例はないのですが、一つちょっと感じることは、派遣切りで、20代くらいの男の子が他府県から大阪に流れてきたときに、逆に女性いないのですね。あれはなんでなのか？女性はたくましいのか？悪く風俗とか、悪いおとこの人につかまっているのか？そんなことから、少し発生が遅れているのかということも感じるのですが、案外女性が少ないねというのを話していました。

ただ女性の方もたくさんいて、ご夫婦的な内縁関係多いですが、テントつくったり、小屋つくったりして、こつこつ生活されている人もいます。そういう方は女性の方がたいがい年上。70代とかで、50代のおっちゃんといて、おっちゃんが、生活はアルミ缶、雑誌回収、廃品的な回収なんですけど、ものすごい稼ぎはる。養なわなあかんとおもってるから。朝夜中から起きて、ちゃりて、まわって回収してきて、廃品を売るところで、2000円とかを引き換えにもらって、帰りにスーパー玉出にいて、買い物をして、奥さんのところに帰って、調理までする。いたれ

りつくせりのちよつとうらやましい生活をされている方が何人かいらっしゃいます。脱野宿お勧めしても、これでいいやという感じですね。本当に困った時は、言ってくださいねという感じです。逆に、私たちがそういうところに訪問すると、励まされたり、コーヒーもらったり、バナナもらったり、という感じです。

一方単独の女性の方はきついです。たいがい、精神疾患や知的障害を患われていたりする方が単身でいて、なんとかせなあかんですが、意欲がないんですね。なので、客観的に見たら施設に入った方が、アパートに入った方が、病院に入った方が、助けてもらった方がいいと思うのですが、自分からはうんとはいわない。ほとんどの方がいわない。少なくとも敵ではないということをおもってもらうために、にやにやししながら、そばにすわってたりして、若干ですが、支援物資なんかがあるので、食べ物でつろうとか、たばこでつろうとか、そんな風になっているんですが、事例をもってこなかったんで、賛否両論あるケースを。

今日も最後にお話しされる丸山さんの携わっているグループから紹介された、2年くらい前の大阪駅の前の阪急食堂がいのおばちゃん、完全たれながしでがりがりで、冬の寒い時、年末くらい、いてはって、教えてくれはったのは丸山さんのグループで、声かけてもらって、着替えさせたり、色々してくださってたんですね。心配だからって、巡回相談に連絡あつて、いったんですが、ほつといてくれっていいながら、一億円何兆円がってさげんではるんです。大阪駅が中途半端で、食堂街の人は、あんなん早くどつかいれろ、通行人はかわいそうやって、食べ物あげたりするんですよ。どうしようかなっておもって、無理やり救急車にのせました。そして、このへん、賛否両論あるとおもうんですが、命にかかわる時は、わるいけど、無理やりやります。法律に照らし合わせたらむちゃくちゃな話やおもいますが、後で、本人に謝ります。

その人の場合は、救急隊よんで、救急車の人は望まないとのせてくれないんですよ。本人がどんなに衰弱していても、本人が拒否すると、救急車はかえってしまう。救急隊員の人に、これいいんですか？と言って、説得しますからといって、ものすごい人通りの多い、救急隊またして大変でした。警察が通りかかったので、ここにのってくださいということで。巡回相談員が3人いるので、何かあつても拉致じゃないですよいいながら、その中で病院を手配して、乗せたんですね。うわ一つて暴れて、手がうんこまみれになってたんですが、とりあえず、その人ともどもうんこまみれになりながら、病院にいて、つ

かみかかられるのかな思ったら、乗ったら、すぐにねちゃったんですね。寝て、精神科の方に、いったん帰ったんですが、全然拘束もされず、行ってしまって、保護室で、芳香スプレーやりながら話や着替えをして、その後謝りにいったんです、そしたらかえって、こちらこそごめんねとって、感謝してるといわれて、今も元気にくらしでらっしゃるという例があります。これ、賛否両論あるとおもったんですが、せっかくなのでお話をさせていただきました。

水内

森本さんお願いします。この後、休憩をいれます。

## ■5



### 新しい自立化支援塾

(徳島市) 代表 森本初代

森本初代とうします。普段は環境アドバイザーとか地球温暖化防止担当推進員とかしながら、こういう活動もやらせていただいています。エコな活動、本来、しなければならぬとだめなのですが、こういう風に暑い日は、首にチタンを埋め込んで、骨移植をしていますので、すいません、エコな活動になるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。うちのリーフレットですが、みなさんにお配りさせていただいております。これは、私自身がつくってみました。

もともと、ホームレス支援の活動をしようと思ってやったわけではございません、平成8年までは、ちゃんとした普通の会社に勤めていまして。交通事故が原因です、いろんな活動に加わるようになりました。普段は目にできないようなこういうごみのやまです。会社勤めをやめて、気になりましたので、よなよな、ごみ掃除をしながら、やっていました。そういったことをしているなかで、たまたま通りかかって、お手伝いしてくださったのが、ホームレスだったんですね。これが「まねきNECOの会」の活動から、新しい自立化支援塾の方につながりました。次がですね、「まねきNECOの会」の環境と街づくりの団体です。この左側に書いてあるのがですね、まねきNECOの会の看板です。

こういう看板みられたことございますか？これは、徳島

県が発祥、名西郡神山町というところの大南さんというかたが、アメリカ帰りで、その時にそういうお掃除をするのに、企業とかが、私たちが、このあたりをきれいにしていますということで、行政の予算がないなか、こういう看板をたててもらって、地域のみんなで、たまり場とかこういうようなところでいろんなことができています。これが徳島県が一番多いと思います。道路であつたり、港、うちは公安の管理しているところでやっています。公安であつたり、道路であつたり、川であつたり、いろんなところでやっています。

これが徳島ですね。ちょっとあまりにも、かけはなれている。ここからだ、いつも大阪とかでお話する関係で、和歌山があつて、淡路島があつて、兵庫県があつて、和歌山までフェリーで繋がっています。先程お話しした、大阪からも、高速バスで一本でつながっていますので、いろんなところから、いろんな人が往来しています。

これが、当事者とボランティア活動をしています。もと当事者の方。今現在、ずっと後ろから緑の女性の方は30代ちょっとすぎのかたですかね。一人の子どもさんを施設に預け、一人を実母に預け、ご本人は自由恋愛で、これはたまたま、もと当事者の男性がこういうことしてるから、連れていくよということで、連れてこられました。もうひとつの方の高齢の方はもと当事者です。

これは毎年一回、今年もやらせていただきましたが、医療福祉仕事、街角相談。保健所の一角をワンフロア一借り切りまして、医療と福祉と仕事の相談をしています。今年は、若者人がおおいということで、若者サポートステーションも一応、同じようなかたちで相談にのってもらいました。福祉なんでも相談ダイヤルのメンバーですね。ジョブ徳島、無料職業紹介所、徳島県労働者福祉協議会、内科の先生は福田診療所、歯科の先生は、歯科保健研究科、大阪でしりあつた先生をわざわざきていただきました。保健所の方で、結核検診、総合相談は、徳島県、保険福祉政策課、地域福祉支援室。ホームレスの人を保護をするところで、まだ基本計画も何ありませんので、そこの方たちも現状把握したいということで来られています。予算はどこも使ってないと思います。

これが新しい、自立化支援事業。全体の会員の写真もおもったんですが、最近ではですね、悩ましい、お金の活動資金の問題から、若者の重たい問題から、ほとんど窓口私が動いたところで、みなさんに相談かけています。今、こんな状態で、これは何をお話したのか少し忘れましたが。こんな状態です。まねきNECOの会のメンバーが半分いまして、あとは、行政職員、直接担当の

かたではないんですが、右の彼は大学時代の時から、私のところにきてまして、今は行政職員になっています。右の奥の方は県庁職員の方で、後施設の方とか、介護のお世話をされているかたとかそういうメンバーです。

個人の状況に応じた支援、またみていただいたらとおもいます。うちの特徴では、炊き出しをやっていません。その分、右の上にあります、屋台のラーメン屋のおちゃんが、たまたま、まねきNECOのお掃除のメンバーでして、ラーメン屋台を夜 8 時くらいから出すんですが、それまでに、地域のごみ掃除をさせていただいています。相互支援ということで暇なときもおありになるので、年に一回だけですけど、ラーメン券を買わせていただいています。気兼ねなく、みなさん、お腹がすいたときには、大盛りのラーメンが食べると。そういう形でさせていただきます。

え一つとこれ、最初のころ、何をどうしていいかわからなかったときにですね、NPOの支援センターができて間がなかった時に。うちの活動をみなさんに知っていただきたいということで、これ私と色々なメンバーがちょっと作ってみました。どんなところにいままで関わってきたの？から、どんなことをできるの？みたいな形で、後情報ですね、下のあたりは、四国で松山とか、もやいとか、スープの会ですね。最初のあの、とっかかりの資金かせぎをですね、あしがらさんという、ホームレスの人が主演の映画で、財源を確保しました関係で、そういうようなところから情報をとっています。

一番大きい出会って、交番とあるのですが、これは徳島の特徴なのかなと。お昼に回るのも、交番のおまわりさん、夜にまわるのも、おまわりさんが夜回りさんになってくださいます。

事例1ということで、私が一番最初に関わった方です。お寺の仏道で生活していて、2年間全くお風呂に入っていないでして。知的障害の子どもさんがいるけど、施設に預けて、そのままの状態。お腹がすいて、たまたまローソンのお弁当に手をだしてしまった。事件にはならなかったんですが、どうしたものかということで、たまたま女性センターから連絡がありました。こんなこというと、みなさんわすれてくださいね。女性センターから連絡きまして、女性センターがそんなんで、本来、かかわるんじゃないの？と書いていたら、時間が4時くらいでしたかね。遅い時間でありまして、もともと警察から福祉事務所にいって、私がお邪魔した時に、福祉事務所のところですね、おっきなお部屋で、みなさんどうしたものかということで。うちに支援要請きまして、とにかく2年間もお風呂はいっていなかったんで、一番望むことは、今日泊る、

今日帰る家がない。私一番見たら、この状態で、みなさんどうされるんですか？と問うたんですね。とにかく、お風呂に入れてあげて、服も着替えさせてあげて、ゴハンも食べていない状態で相談にきていたので、食事を用意してあげて、服もできるだけ明るい色、ピンクとか、赤とかのソックスをいっぱい買って行って。お風呂にどっか入らしてほしいということだったんですが、どこもなかったんで、たまたまその近くにNPOの支援センターの関わっているメンバーがですね、新しく店を出すところでそこにお風呂と畳の部屋もあったんですが、いろいろなものがあるのでだめということで、とりあえず、お風呂に入らせてほしいということで、上から下までお着替えしてもらって、長い長い髪をされていたので、私がついてきた髪をくるものをさしあげて、衣類は上から下までそろえさせていただきます。下着までそろえました。その中で、お店にですね、ちょっと大変、大変ということで、何かそちらで支援していただけるものありませんか？というところ、いくつかまわってきたので、それもお持ちしました。

そんな形で、きれいになったんですが、ゴハンも食べていただいて、ご本人満足で、じゃあまたもとのところに帰ろうかという雰囲気だったので、そうはいかないので、本来、福祉事務所の方に、どないかできるかという前の全段階でお話したら、女性の方がこられて、そういうものはありませんといきられたので、上司の方にもういっかいきいてください、というところ、できないといってましたというところ。あなたと同じ女性で、何も心にひびきませんか？って私ももし、逆の立場だったら、どうします？って言ったら、同じで、できないものはできないって。もう、責めてもしかたないので、できることをって。

これ以上、うちはここからなにができますかね？って言ったら、警察の方がですね。夜警察署は、まっさらの建物になったところでした、お風呂に入ったんですが、その匂いがすごくて、次の日に御礼にいってらお香をたいてたので、そうとうだったと。一晩とめていただきました。そこが、安全、安心、ご本人とっても、次につながるのも非常にいい場所でした。福祉事務所につなぎ、また女性センターにまた戻して、相談にいらって、その後救護施設に辿りつきました。今は元気に暮らしています。

事例2は、この60代の女性ですね。子どもさんを離婚後、3人、娘さんを一人前にしました。貯蓄がなく、心の隙間をどっかで埋めるために、ギャンブル依存症になって、2人の娘さんとは疎遠になって。たまたま一緒にいた末子の人と、生活していたけど、その、離婚したあと、交際相手ができただけで同居ができなくなって、路上に

でたと。その女性も年下の男性ホームレスにより福祉事務所に相談しまして。この白寿園とは、高齢者の施設です。60歳以上です。ここで、あの就労の方もかまわないということで、今のインターネットカフェのように、お泊りだけを提供していただきました。ここももちだしてやられているということで、早めにつながなあかんということで、次は、福祉事務所の方にさせていただいて、3カ月ですかね、仕事も決まっていたので、3カ月で転宅、保護廃止で自立したということです。

事例3です。50代、60代、ご夫婦です。男性50歳、女性が10歳も上でした。夫婦で、車上ホームレスでした。右側に、警察に逮捕とあるんですが、実は行政関係の方だったので、なかなか福祉事務所につなぎ辛いというのがありました。退職して間がない、退職金はいったんですが、お金の使い方がその間にどうしていたのかというのもありまして、本人は保護を受ける意思はあるのと、御身内の方がですね、あちこちで財産がありまして、そういうことで〇〇されて、御嫁さんというか、奥さんの方がですね、糖尿病で、情緒不安定、車の中で生活されてたんですが、公園の駐車場からトイレまで車で送っていたと。ガソリンどうしてたのかな？と。そしたら、仕事の先の社長の名前を借りてということで、ガソリンスタンドの他人名義で給油して、詐欺で逮捕されました。警察に逮捕されたということで、うちも家を探したりいろんなことをしようと思ったんですが、そのうちにそんな形になりまして。奥さんだけは女性センター、その間に、待っている間に福祉事務所と密に連絡で、生活保護申請を奥さんだけ一人されて、その後、ご主人が私もよくわからないんですが、帰ってきて、中睦まじくしています。ただ問題は、奥さんが、ご主人が働きに行くのもいやだと、いつもひっついておきたいということで、なかなか就労に結び付かないということで、ちょっと難点ですね。

事例4は、男性ホームレスからの通報ということで、この彼女は南海フェリーにお送りするときに、写真とらせていただいたのですが。徳島駅の周辺には、夜ホームレスと呼ばれる人たちが寝れる安全な場所、サラ金のキャッシュコーナーの前あたりらしいんですが。カメラがあるので、事件事故にはつながらないということで、みなさんそこを利用しているようです。たまたまそこで、この方がおられると、食べる廃棄用のお弁当が、減ると、彼女に渡すために、彼らの食べるものが減るんですね。男性って、自分が食べなくても、女性に渡すみたいなんです。それと、夜横に横たわれるとやっぱり寝れない。男性ばかりだと問題ないのですが、一人女性がいるとできないということで。警察との連携で、意思を確認して、

女性センター経由で。たまたまこの方障害があったようで、家族も探していたようです。帰られてから電話だけしてくださいねということで。ホームレス状態ではあったので、本人の意思で出てきたのかもしれないですが、のちに帰る勇気さえあったら、なんとかなつたかなでした。

事例5は、60代の女性で、いままで住み込みの仕事をあちこちされていたようです。どうも、借金問題があったのか、駅周辺ですね、横になつたりしながら、転々としていたようです。それも、男性ホームレスの人から、僕はいいから、さっきの人と全く違う当事者なんですが、どうかにかしてほしいと連絡ありまして、この方も、連携で、意思を確認して、女性センター経由。ご本人は、ご高齢だったのですが、住み込みではたきたい。いままでみたいにもしどっかあるんだつたらということで、ジョブ徳島、無料職業紹介所で検索してもらって、ハローワークに調べてもらったら、住み込みで、年齢不問というのがありましたので、女性センターに住みながら、次の場所が決まるまで、女性センター使ってもらって、ジョブ徳島の住所使い、就労につなげたと。次にいく、旅費がなかなか大変だったみたいで、うちもできたら出してあげたいなおもつたんですが、その時予算がぎりぎり、持ち出しばかりだったので、女性センターに相談したら、カンパでなんとかしてもらえました。

事例6のこの60代女性、左右、2回なんですね。またお会いしましたねって感じで。男性ホームレスの人からの通報で、ご本人の意思を確認して、女性センターにつないで、どうしたいのですかといったら、保険の満期があるので、とりにかえりたいということで、本人は、ホームレス状態覚悟で出てきたのですが、どうしても家族のもとに戻りたいということで、うちで旅費をお貸して、のちにまた旅費はかえてきたんですが、2年後くらいですかね、また、徳島市で、話なんですが、鳴門市という隣の市からまた支援要請ありまして、なんでですか？っていうと、たまたまご本人がもつたということで、その彼女は、その後、徳島にいたときに、恋愛をしてたらしくて、そのお金を大阪に取りに行つて、また徳島に戻つてきて、年下の男性にみんな貢いでしまつて、お金がなくなつて、岡山でなぜか保護されているんですね。岡山から、なんかの不具合で、どうしても徳島をめざしたかったのかもしれないのですが、徳島市にこずに、鳴門の公園にいますので、どないかしてほしいという警察からの要請で、あなたどうしますか？と聞くと、息子のところに行きたいということで、息子さん高知だったんですが、まあそれも、鳴門市の福祉事務所とはなしをしまして、鳴門の救護施設経由で、県外に転宅で、鳴門福祉事務所は県外



まで、来るまで送っていかれたそうです。

その他の事例というのもこんなような形で、様々な形があります。民生委員、がかわられたり、中には、12例中、2例がご夫婦でした。60代のご夫婦県外からこられて。支援要請で、たまたま私が県外いていなくて、警察の方で調べたら、捜索願がでて、どういわけか、奥さんだけ出てたので、もしかしたら夫婦とは違うのかもしれないですが、一応家族のもとへかえるということで、警察関係の方がお金をだされて、戻したようです。

徳島では、まだ施策の方、全くできていません。うちの方からこれは要請したものです。ホームレス自立支援連絡会議、お金もいらないのに、何かつくってくださいという、国の方からは、ハローワーク、職業対策課というのがきまして、中心になるのは、徳島県の福祉政策課、地域福祉支援室、県民暮らし安全室というのは多重債務のところなので、そこも来て、いつもの医療福祉相談の保険所、それから就労支援ということで、緊急雇用なんかもある、労働雇用政策課というところ、あとはもう、ホームレスと呼ばれる人たちがいる、場所のところですね。あと、警察本部からは、生活安全企画課、警察本部お二人こられていました。市町村からは、徳島市が一番多いので、保護課の方こられていました。NPOもね。これはもう、こちらが呼び掛けないとなかなか集まってもらえない状況で、みなさん忙しいところばかりなので、何かをというよりも、情報交換の場ができたらいいと思っていました。とりあえずつくりましたというような結果だけです。今の段階で。

こんなような状況で、うちの方のホームレスの状況によって、新たなホームレス予備軍のケアもしています。できるだけホームレスの人たちの人権に配慮して、地域社会の理解と協力をえつつ、様々なホームレス問題に解決を図るとともに、排除のない社会作りができればと思っています。

徳島としては、うちの活動も最後に一言だけ、早期発見、早期保護、早期支援制度決定 早期自立ということで、最近は申請を午前中にすると、その日に住宅扶助費と2万円がでます。決定までの間はつなぐことにちょっと苦労しているんですが、そんなような状況です。できるだけ、早く見つけて、早くなにかということで。救護施設も県下で3施設あります。今のところ、空きがあれば入れるような状況です。

夜間とかで、救護とかに手続きができない場合は、インターネットカフェを若い人には利用してもらおうと思っています。先に利用してちょっとデータを作ろうかなと思ったら、保護のOKがでてからだと、インターネットカフェ

でも大丈夫だということで、この間は持ち出しになったんですが、そういうこともできるということです。最近は一晩だけ、泊るという、倉庫を改造しました。泊りできるような炊飯器からおいたんですが、20代の若者ですかね、翌日、いなくなりました。そういう方もあります。こんなところですかね。ありがとうございました。

水内

ありがとうございました。休憩します。すいません、時間なんで。ぶっ続けでやりましたので、まあちょっと10分くらい休憩します。なるべき効率的にやりましょう。質問用紙、複数でもかまいませんので、書いていただいてスタッフの方にお渡しください。

## 6

### 質疑応答



水内

ご覧のように、事前の準備もあまりせず、日ごろのお付き合いで、あうんの呼吸でやっておりますが、ごらんいただいたように、非常に明るいというか、これがモットーというような集団、付き合い方でして。しんどい話がこれは、大阪の悪い癖なんですけど、どんなことでも笑いこいてしまうところがございまして。

それだけ、個人の力量が非常に強い。個人の力というのがないとなかなかこんな技ができないというところ。それをうまくいこと、施設というのを使いながら、しゃべっていただく話と、つないでいられるような、立場の益子さんとか。あと、地方都市で一人ずつつながりまくっている森本さんのような存在というような。個人の力量とつないでいくというネットワークの広さ。あとひとつ、いつも重要なと思うんですが、何かあったとき、必ず夜は飲む、食べてしゃべっているというあたりで、すぐ、電話一本でなんでも言えるという仲をつくってしまうあたりが、非常に重要なとおもっております。

いくつか、質問をいただきましたので、ちょっと私の方で、整理して、発表させていただきますが、

まず、施設をどのようにして運営されているんですか？という質問で、たとえば、益子さん、森本さん、竹浦さんたちにですね、運営のためのお金はどう出ているの

ですか？特にSSSSさんに対しては、ずばりお金はどうされているのですか？という質問が多い。あるいは、公の資金とか、職員さんとかの給料はあるのですか？企業からの寄付は？施設の借上げはどうされているのか？とかですね。まずは資金の面からいいますと、横田さんのところの施設は？

横田

措置施設ですので、国と東京都が半分ずつ持っています。だいたい、生活費安いのですが、一人あたり54,000円と、そのほか、色々な手当がつかますが、それは利用者につきますね。

水内

施設の措置費としては？一人当たり月いくら？

横田

54,000円ですけど。職員さんの人件費とかを含めると、だいたい、えーっと、20万円まではいかないかなというくらいですかね。

水内

これものすごく重要な議論でして、措置施設というのは、基本的には、法律の根拠に基づいて、そこには、一定の基準で一定の額が出るという形で、法の根拠の下にある施設は、そういう運営されていますけども、たとえば、病院に入った場合にですね、生活保護の患者が、生活保護で病気になった方が、まあ、単純に行ってしまうと、月あたり、50万か60万位お支払いしていますよね。一番安いのが、多分、一般住宅に住みながら、生活保護を受けるのが、11万位で、一番安いと思います。その方も医療扶助をつかいはりますので、やっぱり16～17万円になられる方もおられるかな？もっとうるかな？20万円くらいかな。

基本的に生活保護の議論で抜けがちなのは、医療と施設ですね。施設運営というのは、結構金かかっているという議論を飛ばして、生活保護のまあ、財政負担が増えているというのに対して、今日の高市さんのお話は、施設退所して、その人に2年間お付き合いさせていただきますよという、国はここにもお金だしているんですよ。すごい話ですよ。ここにもお金だして、施設よりも安いお金でしながら、施設にいると同じような効果で、言葉悪いけど、安あがりという形でやっている。住んでいる人は、地域にお金をかえしていくということで、試算したら、リーフレットにもかきましたが、1億円くらい1年に

ですね、地域にですね、通所事業した人が、生活保護のお金を地域に1億円投下しているという意味では、大きな意味を持っているのではないかなと思います。

高市さんのところも、ぬくぬくした施設というおられましたが、ここは、一人当たり、1カ月に25万円つくんですね。通所事業でもついていますので、それは単価が別にありますが、まあ、25～26万というお金が措置費として入っておられます。これは、益子さんのおられる自衛館の救護施設も一緒です。罪を犯した人が、しばらく保護観察期間に入る、更生保護法人の、更生保護施設が、だいたい18万くらいと聞きましたが。

富山では、更生保護施設はどこにあるのですかね？刑務所入って出た人の受け皿という機能を持っていますが。富山県の方ではちょっと覚えていませんが、今後は地域定着支援センターというのを作らなあからんはずなので、富山県も多分どこかの特殊法人が手挙げているのかもわかりませんが。やっつけられると思いますが。法務省管轄の措置で出ていくと。今度は、初めて、厚労省と法務省が手を結んで、刑余者の出たあとのサポートをどうするかということで、今刑務所の方にも社会福祉士を配属していくという動きがここ1～2年動いています。今日は女性ホームレスということですが、刑を犯した方の受け入れとか、そういう方たちにたくさん接しておられるかたばかりですので、そのあたりも、関係していきかなと思っています。

本日は実は、女性の更生保護施設の所長さんも声をかけたのですが、所用でだめだったんです。お呼びしていたら、ますますタイトな時間だったとおもいますが。今回は、皆に声かけて全員うけてくれると思わなかったんで、10人ほど声かけたんですよ。半分きてくれたらええわとおもってたんですが……。すいません。今日はきていただいてありがとうございます。きょうは一人休みましたんで、大阪府大の中山教授が記録がかりできていますが。

今、お金の話していましたが、そういう形で、ホームレス自立支援センターもだいたい、そうですね、12～13万円くらいでるんですよ。実は、一番安いのは、ホームレス自立支援センターといわれる、一人あたりに就き12～13万円支払われます。これは富山ではもっておられないんですが、

で、益子さんのところの、巡回相談室は、お金は？

益子

末端の者なので、お金のことは全くわからないのですが。とりあえず、法人も持ち出しありますけど、市がやっぱり

だしていますね。自立支援センターは国も出していますが、巡回は出してませんか？

水内  
出していると思うよ。

益子  
私自身は、法人の職員なんで、法人から給料がでていますが、さっき言っていました、30人ぐらいの、3分の2くらいは、臨時職員さんなんで、その給料が措置の予算からでてるんですよね。だから、毎年、上の人は予算が、予算がといって。

水内  
ホームレス自立支援センター、大阪の場合、5カ所ありますが、これ、2法人にわかれています。僕がいつも行っている法人は、10人職員さんおられたら、1人が正規職員ですね。社会福祉法人から正規職員で行っておられる。あと9人は、本当にハローワークから、応募されている。実に、利用者の顔と、区別がつかないほど、バラエティーに富んでいて、2週間、3週間いないと、相談員かわったら、また新しい入所者ですか？という風に、わからないなあって。そういう意味で、人生経験豊富な方がおられてですね、非常に動物園みたいな。よく殴り合いのケンカをよくね。僕現場でよく付き合いましたが。目の前で、ビール瓶がかしゃんみたいな。あのお店つぶれましたね。。。

まあ、そういう意味で、公的セクターのお金ってどう配分するかというときに、大都市では、ホームレス自立支援法というのを結構つかっているわけです。あと、根拠法のある施設は、それをつかっていると、で、後、宿泊所さんどうですか？

竹浦  
SSSの法人運営は、ほとんど、施設利用料で賄っています。行政さんからの受託事業も一部あるんですが、そういったものを除いては、基本的には施設利用料という形ですね。今、公設の費用、措置費ということで、国及び自治体が責任を持つという話があったんですが、SSSの場合には、措置ということではなくて、利用契約、国・自治体から人を依頼されるんじゃなくて、当の本人と利用契約を結んでという形なので、あくまで自己選択で入所していただいています。

でも、お金ない人が来るんですよね。お財布の中に30円しかない人とか、「10日飯食ってないんだけど〜」

という方も相談にこられます。大多数の方の生活保護制度の申請同行というのを、SSSでは行っています。パンフレットの中にもあるんですが、実は、データの中で、ちょっとご紹介すると、27頁の中段に、収入内訳というのがあります、こちら、施設内調査ということで、4,000名以上の方からのデータをご紹介するのですが、こちらで、生活保護のみというのは、65%となっています。そのほかに、生活保護を受けているんだけど、年金を受けているという方や、後は、生活保護をうけているけど、仕事もしているという方もいらっしゃる。全体でいえば、生活保護が絡む方は90数パーセントですが、生活保護のみという方は、65%となっています。

なぜこういうことが起きるかという、当初は、生活保護の申請同行をして、まるまる生活保護ということ多いのですが、実際、私たちが自立支援を行っておりますので、そうしますと、住所設定ができた、年金がもらえるようになった。あと、仕事が決まったという形で、ただそれでも生活保護を切るまでに至らない収入だから、生活保護と仕事の費用と併せて、施設利用料をお支払いしますというような形です。

中には、完全に自費という方もいらっしゃる。厚生年金がかなりかかっている、月の年金が20万を超える方も出てくるんですね。そうすると、利用料が支払えます。後は、仕事が決まって、本当は、施設から出られるんですが、一人身だし、皆もいるし、食事の提供もあるので、施設からそのまま仕事に通いたいという方もいるので、そういう方は給料からお支払いいただく。その費用自体は、だいたい、地域によってもことなるのですが、8万代から10万円くらい。それが1カ月の施設利用料です。生活保護費で考えますと、やっぱり12~13万円という世界ですので、ご本人のお手元には、3万円くらい残るといことです。

これで私たちは1日2食の食事を提供して、自立支援・生活支援というのをやっているのですが、当然少ないスタッフで限られた費用の中でやらざるを得ない。簡単にいえば、予算申請しても、どこもおかねお金を出してくれるわけじゃないので、あくまでも施設利用料の範囲でやらざるを得ない。水道、光熱費、食費の原価を支払う、後は、私たちがいる統括事務所とかですね。そういった地代家賃というもの、利用料の中で賄わざるを得ないという形です。

私たちは、すごく大きい規模のNPO法人なので、年間の受け取り利用料も、だいたい、40数億という形になるんですね。支出の方も40数億となっています。前年度、前々年度はどうか、黒字で過ごしていますが、そ

の前は、1億単位の赤字というも出ていました。それは、経費削減したり、経営効率を見直したりして、それで運営をしています。だいたいそんなところでよろしいでしょうか。

水内

40数億ときくと、すごい大きな額と聞こえるわけですが。まあ、からくりといえはおかしいのですが、大阪では、このビジネスが見られません。なぜかという、ホームレスの人たちを受け入れる公的な施設が方々にあるんですよね。東京は、そのいわゆる路上に住んでいる方に対して、そうした施設を公的セクターがオープンにせず、一般的に貧困な人にオープンにした。一般貧困とは、路上に出ているか出ていないか、そんな扱いなのですが。つまり、東京はホームレスの方には一般貧困と呼ばれる公的施設を開放していないのですね。

また大きな違いは、23区がそれぞれ個別に自治体であるということがあって。大阪市は、オール大阪で、24区ありますが、区ごとになんやかんやいうたって、それはあんまり問題ないんですよね。東京都は23区がそれぞれの自治体なんで、オール東京、オール大阪的なホームレス運営できないというのがあるんですよね。

SSS さんのおられる前でいうのもなんですが、率直にいうと、施策の受け皿が東京都は、なかったときに、宿泊所さんを使うということを宣言されたということが非常に大きかったと思います。誰に宣言されたかという。公には宣言していないんですよね。業界つまり、役所、福祉事務所の中でのみ、そういう流れというのを、東京とは認めた、公認したんですよね。

大阪には宿泊所はあるんですが、大阪市で宿泊所を経営するとですね、福祉事務所は紹介しないんですよね。福祉事務所はまず巡回相談員に相談をして、そこからまわしていくというシステムをとられているんですけども。今東京都も、たまゆらとか、いろんな都内施設、都外施設がいっぱいあって、生活困難な高齢者の方がいっぱいおられるというのは、そういう意味で、送り場所、こんないい方したらあれですが、屋根のある確保をどうするかという時に、いろんな様々な抜け穴じゃないんですが、たまごが先か、鶏が先かというような。行政がどっかに出したいと思うと、どっか受け皿があると、さっさと行くというか。いろんな人が家に戻れない、家ではケアできない人が、ぐるぐると回転しているという状態があります。しかし、それに乗れない、乗らないという風に意思表示する人は、そこからは入っていけない。たとえば、大阪では、巡回相談がありますので、その方に関しては、

一番長い方で、8年から9年のお付き合いをされています。

では、全く、何にもないところでやっている森本さんどうされているのでしょうか？

森本

「活動資金どうねん出しているのか？」ということをお話させていただきます。もともと、まねきねこの会というところが、地域の依頼、例えば、草とりとか、引越とか、顔と顔の付き合いでやって資金を得ていたもの。それを最初は財源にしていました。例えば、お金は寄付扱いで、どんなことをどこまでしたらいいですかというところをお話させていただいてやっていました。いまは、5カ所くらい、年に1回ないし、2回をお掃除にしています。毎回、もと当事者で、生活保護で就労がなかなかできなくて、就労に繋がれない人が、福祉事務所で色々言われるので、うちのボランティアに行ってきますという形で来てもらっています。

うちは、時給高すぎとみなさんに言われるんですが、1時間千円くらいなので、日当は6~7千円お支払いしています。その残った部分を活動費にしていたり、後、お金がない時は、たとえば他府県に送る時にお金がないとかいうときは、行政のところカンパ箱を回したり。私が行政に行く時はカンパ箱を持っていて、これが結構集まるんですね。警察とも懇意にしています。駅前募金活動する時は届け出ているんですが、そうでない場合は、NPOであれば、大丈夫だということで了解得ています。会計の方は、去年、15カ月(決算の日を12月から3月にしたので、)私が外へ出て、お金もらったのも全部含めまして、年間180万円くらいのおさまっています。昨年は前年度持ち越しの持ち越し部分、マイナス部分を、計上することなんで、今年は収入が180万円、支出の方が165万。そのうちの寄付金が70数万。助成金、四国労金さんの助成金で10万円、収益事業というのが、先程の分で、39万円、委託事業というのが、県の委託で、人権の方でフォーラムをさせていただきまして、54万ちょっとで。持ち出しが出たんですけれど。

そんな感じで、お金がない時には、いろんなところでお金ないないって言ってたら、お米がくる。お米を送ってお金にするとか。服がなければ、当事者が服がなくて困ってます。サイズがなかなかそろわないと。役所にいって、こんなサイズありませんかというの、だいたい翌日にはそれが届きます。あとまあ、お金に関しては、あんまり変わったことはしていませんね。変わっている？まあ、寄付金が多い中には、私がアルバイトにいったのも入れて

います。

水内

真似できる個人経営やったらええんですけどね。なかなか難しい。私も森本さんと出会ってまだ3年くらいですかね？見染められてから3年目ですね。その支援活動、公園の物置がシェルターなんですね。私、全国のホームレス調査をやったんですね。徳島は皆、当事者の方が答えてくれたんですね。自立支援センターとか公園シェルターとか言っているんですね。徳島市の人。資源をありったけ利用して、つないでいくという柔軟さがすごいなど。警察とか、なんでも使えるものは使えと。お巡りさん、野宿の方に、お前「森本組」しらんのかといわれたとね。なんやそれは。森本組しらんかったらホームレスはもぐりやって。おもしろい信頼関係ですね。最近、救護施設を使い始めて。これは大きいですね。今まであんまり使えなかったのが、織田、高市技をつかってね。

森本

最初救護施設が、そういう取り組みができると知らなかったんですが、たまたま徳島市にも、市直営があるのですが、鳴門市というところで増員するような形で、昨年、移設をしました。その関係で、そちらが利用できるようになりました。役所の方に行くと、森本が関わると案外すんなりいくというのは、施設がいっぱいになると、その人に対して、転宅や就労の手伝いもしているんですね。そんな関係だからなんですよ。

水内

入退所支援していただけるので、施設側としてもありがたいのですよね。それから、次は、施設の方に質問がございます。横田さんの方ですね、やっぱり障害の問題が非常に多いということで、専門的な対応として施設がどういうことをしているのかということ、それでもしきれないときには、他の施設との連携はあるのかということですね。

もうひとつは高市さんに関係しますが、やはり、医療との関係というのはどのように築かれているのか、どういうところの医療を使い、効果をもって医療が使えているのか。医療関係の結びつきというのは非常に重要なとおもっているの、まずは横田さんの方から、障害の問題と医療というかたちですね。出口の問題というのが結構あるし、出たり入ったりということもあるでしょうから。そこをお願いします。

横田

先程お話しましたように、知的障害だからといって、知的障害者施策にはのらない方がいます。それに加えて、精神の方たちがたくさんいらっしゃる。また、両方を合わせてもっていらっしゃる方もいるので、私たちは、女性としての支援と同時に、その障害に対しての理解と精神に対しての理解というようなことで、いずみ寮をちょっと例に挙げさせていただきますと、毎月1回、精神科のドクターと個別なケースを通しての検討会をしています。それと、年に数回、精神医療のまた別のドクターに来てもらって、精神医療の勉強会をしています。性についての学習会というのを利用者が今まで5年回毎月1回、生と死との学習会というのをやりましたね。中絶いいことわるいこととか。男性に誘われたらどう断るのかとか。子どもがどこから生まれてくるのかとか。基本的なところですね。

利用者の中で、出産経験のある人がですね、「子どもって10カ月で生まれるの？私12カ月だと思っていた」といってびっくりしたりね。また、職員が同じ先生から、2～3カ月に1回、職員が性の勉強をしているんですね。その両者に対して、きっちりと、正しい性というのはないかと思うのですが、未成熟な性に対して、質問が来た時に、答えられるくらいにはなりましょうと。特に、性のメカニズムだけではなくて、生きる性と、女性性とですね、両方に対して勉強をしています。

それから、性暴力、最初にお話させていただきましたが、性暴力被害者は構造化することが多いので、性暴力被害に対しての、専門のドクターと年に2回くらい、研修会をもっています。ただ、精神科のドクターも、性暴力専門のドクターも、現場という実践の中で、日々の生活で、ちょっとした声かけやそういった関係が回復に繋がるということもあるのだから、現場は支援ということを通して、もっと自信を持ちなさいということをいわれています。

そうは言われるんですが、私に関わっている現場は、本当に、もっと専門性を求められている現場だと感じているんです。今日、皆さまのお話を聞いていて、私たちは、そうやってお金も手当されていて、予算を組んで、年間計画を立てたりできますけれど、それでも、予算が少ない、少ないと言っていますが、森本さんのお話を聞いて、少ない中でもやりくりできるんだなということを学ばさせていただきました。

これは知的障害の方が、知的障害施策に乗らない例ですが。施設から外にできることはすごく大変です。出

た後に、退寮者自立生活援助事業という、これも国からの補助事業ですね。年間2,544,000円というお金だけなんです。昨年度から、1人あたり、13万くらい加算されるようになったんですが、これも1年たったら、終わるからとかじゃなくて、何十年とみている人がいるんですね。東京都はそれを切ろう切ろうとしていて、1年でどんどんどんどん、回転してくださいって言うんですけど、私たち切れませんよ。切ってしまったら、また振り出しに戻って、最初から保護になって、またスタートですから、じゃあ、国は予算をどこで使うかということになったら、むしろ、退所している人を持続的にずっと見守っていくという、ある種の見極めが必要だと思っています。

婦人保護施設から知的障害者のグループホームや、精神のグループホームに移動、移管する方がいるんですが、知的障害のグループホームに入って、障害の差があるんだなということがわかりました。知的なレベルが多少問題があってもですね、(婦人保護施設入所者は)社会知が高い、男性経験があるということで、4~5人のグループホームの中では、際立ってトラブルを起こすのです。だいたい、世話人さんがいますけど、その世話人さんが、ノイローゼになっちゃう。次々と問題を起こして、グループをかきまわしてしまうんですね。

それでこちらの新たなテーマは、両方(施設とグループホーム)が、障害の違いを最初から認知して、トラブルが起きた時にも、きめ細かく、何が問題だったのかということを出して、対応していくということをやりました。そうしたら、もう追い出されるかと思った利用者がグループホームに入所して今年で3年目になったんですね。

同じ障害でも、そういった様に、かなり差があります。精神の方は、本当に、日々の中でもすごく揺れ動きますし。病院との連携、病院のMSWそれから地域の福祉事務所のワーカーと、緊急事態が起きた時に、すぐ対応できるような関係性が持ち続けなければならない。そのためには、日常のネットワークが必要です。私どもの職員なんかは、ネットワークをフットワークといっていますが、まさに日常の細かい、情報交換が日々、行われていることで、緊急事態に対応できるんだと思うんですね。

あと、職場にでても、継続がすごく難しく、トラブルが必ずおきます。職員がジョブコーチのようなことをして、職場まで出向いて行って、実際、障害者施策の中に、就労支援のジョブコーチというのはついているのですが、職員が一番状況をわかっているのが、職場まで出向いて、ジョブコーチのようなことをしております。

それから、一番苦勞するのは、結構、見えないところで、男性との関係を持っているケースですね。先程、お話あった、恋が芽生えて・・・というようなことがありますが、恋ならいいのですが、お金をそつと渡されて、身体を触らせる。お金を出してあげるから、一緒にいこうよといって、カラオケにいて、密室で性行為を強要されるとか。本当に、見えないところでそういうことが起きていて、「じゃあ、男の人とつきあったらいけないんですか」ということを言われるのですが、何がいけないで、どうだったらいのかなんていうのは、事例ではないので、その人の生きてきたスタンスを、どこに置かかっていうことと、その人が、これからどうしていくのかみたいところで、方向づけて支援していかなければならないので、性に関わることへの支援というのがとても難しいという風に感じております。

#### 水内

障害ということで、入ってきましたが、障害者の場合の法律というのは結構、それに対応する施設というのがあって、それに伴うスタッフというのが育ってきたわけですが、実はこれ厚労省全体としてもそうかもしれませんが、生活保護施設に関して、婦人保護施設もそうですよね。救護施設というのは、生活困難という形で書いているので、ケアというのがすごく難しいですよ。軽い方もおられるんですが、しかし、逆に言ったら、施設の外でも生活が継続できる可能性ははるかに高い。

特養を運営していた法人が最近、救護施設の指定管理で始めた時に、特養に勤めていたスタッフが、救護施設に異動して、利用者さんが皆動きはりますね。というか、特養から救護施設にはいったら、元気ものの塊というイメージを持たれるといわれるほど、ある種一時通過の施設であるはずなんです。

家族や企業や会社というもので、支えられない時には、あらゆる生活支援が必要になってくるというあたりが難しいのですが。実は、舛添大臣とか、その辺もあんまり手つけられてないんですよ。救護施設って。どうしたらいいかっていうプランもないし、しかし切るということはいわないんですよ。このあたり、ものすごく重要な施設なんで、宿泊所が逆に、救護の肩代わりをするようなことを今やっているわけですが。そのへんの、セキュリティ、社会保障ってのは、やっぱりこの施設を非常に重要視していかなければならないなと思っています。本当は更生施設はもっと重要になる。

調査やってもですね、退所した人が5年後10年後、全然、音信不通やった人がなんかあった時に、施設の

職員さんを思い出したとかですね。そんなんで繋がっていくという事例があるので、やはり施設でまったり、ゆったりできたという、ことが安心感ということになって最後のセーフティネットとして、また使えるというあたり。やっぱりみなさん、当事者の方に、施設もつと経験してよって。変な言い方ですが。あの生活を経験した時の、あのゆとりというのは、後の人生で、つかっていけるというような形にした方がいいんじゃないかなと思っています。

救護施設の方も、病院との連携というのかなり考えられていると思うのですが、そのあたりお願いします。

### 高市

病院との連携がないとやっていけませんね。職員の立場としては、本当に、精神の方とかやったら、ずっと何かが聞こえている方、幻聴の方とか？「返事せんとき」というも、いちいち返事される方とか。そうすると、4~3人部屋なので、同じ部屋の人がまいてしまう。深夜に、ずっとお話しされていて、それも「殺される！」と叫んだりなんかするので、そういう緊急事態が起きた時に、病院との連携がないと、今池での生活をしてもらえなくなります。

アルコール依存の方もかなり多いです。うちでは、施設で夕食飲み物ということで、お酒飲んでも良い方には、お酒を出しています。ワンカップ一本とか。もちろん、アルコール依存の方はだめですが、そうじゃない方には、ビールとかお酒をだしています。西成なので、一步でたら、いくらでも売っていますし、アルコール依存の方にとっては、本当にかわいそうな町やなあと感じています。

問題は、飲んでしまったという時に、どうするかですよ。結構、ほかの施設の中には、「飲んだら退所」ということにしているところもありますが、今池は、アルコール依存の方は、飲むのは病気なので、飲んでしまったら、「またやってしまったね」という感じで、病院の方に通院してもらって。そこで、また3カ月入ってアルコール教室ワンクール受けてまた帰ってくる。病院の方も、帰るところが今池と、はっきりしていますので、受けてくれはるといことですよ。こちらも、「また病院に入ったか。今度かえってきたらちゃんとしようね」という風に続けられる・・・お金があります。強みがあって、病院は3カ月たったら出ていってほしいわけですから、そこで、今池さんに返せるんだったら入院させてもいいよという部分でお付き合いがあります。

病院から(施設に)入る方は、その病院に戻ってもらいたいのでとても安心なんです。突如、路上から来られたりした場合には、病院を探すことから始めなけ

ればなりません。大阪は、無料の社会医療センターがあるので、そこに通われていた方は、それを頼りにということでも探しますが。特に、精神の方は病院探しがとっても難しいのです。初診でみていただけたところはないんじゃないかと思うほど、精神の方は困っております。そこで、個人芸の織田さんがおられれば、色々なところとお付き合いがあるので、今、精神科3ヶ所、アルコール2カ所の入院できる場所を確保できています。織田が他の学園にいつしまったので、今後のお付き合いはどうなるかというところが微妙なところ。段々、入院受けてくれなくなっている。「今池の今後如何に！！」というところ。

やはり、医療というのがなければ、職員も一生懸命、ケアしてもですね、「アルコール飲んだからバイバイ」というのじゃあ、とてもじゃないけどやっていけませんよね。飲んだって、病気やからしゃーないもんね。また帰ってきたらケアしてあげられるという、永遠のつながりがないとね。職員もやる気というのを失っていきます。そう考えると、施設としては医療と繋がっているというところがとても大切です。そのつなげる人の位置というのがとても重要だと思います。

### 水内

同じ業種のように見えますが、(皆さん)異業種協力なんですよ。全然、業種が違うので、こういう場が大事なんですよ。ここで、出会っておいたら、後でいくらかでも電話でお願いしますってできます。富山の方も、後で名刺交換しておいたら、救護施設は全国から受けられます。一人のケースを扱うと、支援者もいるし、みている人もいるから、どんどん広がっていくと思います。たった1人と思わず、1人でもやったと思った方が力になるんじゃないかと思います。

あとは、丸山さん、葛西の代わりに来ていただいたということですが、彼女はかなり現場で女性ホームレスの方とお付き合いが深いのです。ちょっと補足することがあれば、別の視点でしゃべれるというのがあればお願いします。

### 丸山

京都大学、大学院で女性ホームレスの研究をしておりました丸山里美と申します。今は、卒業したのですが、期間契約研究員というかたちで、高学歴ワー



キングプア状態で働いています(笑)。大阪で、女のおしゃべり会という、女性野宿者の支援グループを起こそうということをやっている、そこで益子さんがお話しされていた女性を時々助けたりということをしています。

まず1つ思ったのは、ホームレスの定義です。ホームレスと言った時に、日本の場合は野宿者の事だけを指すのですが、先程竹浦さんもお話されましたが、欧米の場合には、かなり広い概念を説明するのですね。私は昨年1年間イギリスに行っていましたが、あちらではホームレスを4通りに分けています。

1 つめは、roofless、屋根がないという意味で、まさに野宿状態にある人のことを指します。2 つめは、houseless、屋根はあるけど、施設なんかにいる人を指します。3 つめは、inadequate 不十分という意味ですね。例えば、立ち退きの危機にある人とか、後はDVで家はあるけど、状況的にもう住みたくない、もう住めないとかね。4 番目は、improper 不適切な住宅にいる人ですね。過密な居住環境にいる人など、これに当てはまります。

イギリスでは、ホームレスを話題にする時に、「今日はここまで話しましょう」と最初に定義するんですよ。今日ホームレスという時は、野宿者だけをさしますとか、いや、(上記の)3番まで4番まで含めますというようなことを言いますよね。今日のホームレスというのは、どこまでをホームレスというのを入れるのかなと考えながら聞いていたのですが、現場の方は、野宿者に関わっている方なので、1の定義ですよ。施設の方は、2番目の定義のハウスレスですよ。

それから、欧米の研究とかでよく言われているのは、女性は、隠れたホームレスになりやすいということです。つまり、先程お話ありましたが、路上に出ている女性は全体の3%くらいなんです。欧米では、女性のホームレスは3割くらいいるといわれているんですね。本当に、3割もの女性が路上にでているかという、全くそういうことはないんですよ。路上の割合は、やはり、1割以下で、日本と変わらないと思います。これらの多くは、シェルターとか施設にいる人が多いと思います。日本でも同じことが言えると思います。日本でも、ホームレスの概念をもう少し広くして、1番に2番、3番、4番と含めると、隠れた女性ホームレスという方がかなりいると思われ。ですので、ホームレス問題というのは決して男性の問題だけではないと思っています。

それから、じゃあなんで、路上の女性はこんなにいないのかと考えると、色々といえると思うのですが、路上が危ないとか、色々と考えられます。女性は貧困ですよ。男性と比較して、働いても賃金も安い。母子

家庭のお母さんとかは、子育てと仕事と両方やらなければならぬ。こういった状況があるにも関わらず、路上には、男性の方が多い。福祉が結構機能しているというのがあるのかもしれませんが。ぎりぎりでありながら、底辺の女性がそこで受け止められているということが言えると思います。

福祉も、先程のお話にもありましたが、色々な種類がありまして、生活保護施設というのが一番多いですよ。救護施設とか更生施設とか、あと、ホームレス支援とか、こちらのほうは男性の方がメインになりますが、救護施設とかは、女性も対象ですよ。このほか、女性の方には、母子とかDVシェルターとか、横田さんがいる婦人保護施設とかがあります。女性だけを対象とした施設というのが含まれるんですよ。欧米で、ホームレスという時には、こういう人も含まれるのです。

じゃあ、私の関わってきたケースというのは、統計的なことをいうと、あんまり信憑性はないのですが、女性ホームレスの背景ということでは、まず、年齢は男性よりもほんのちょっと若いと思います。50代位。そして、先程からもお話にありましたように、障害をお持ちの方が多いですね。知的障害とか精神障害とか、知的障害施策に乗らない症状の軽い人とか。また、生活史をみると私の印象では、半分くらいが、単身で生きてこられた方というのが多いですね。もともとは結婚していたけど、途中で旦那と別れたとか。ホームレスになる以前は、単身(シングル)で生きてこられた方が半分います。単親(シングル)で生きてこられた間、パートなどで生活していて、その間はまさにワーキングプアなのですが、結構、ワーキングプアの生活を長く頑張るんですね。10年とか、頑張って、体を悪くして、高齢になって、失業してという感じです。残りの4分の1は、カップルでホームレスになった方たち。行き場がなくなって、夫婦そろって路上に出てきたというパターンですね。これは、女性というよりは男性のホームレスの方にすごく近いと思います。男性が失業して、それに伴って女性も(路上に)出てくると。残りの4分の1は、DVとか、家族とのトラブルで家に入れなくなったとかというのが要因ですね。

就いてきた仕事は、皆さん下層のパート労働で、清掃とか多いです。このあたり、富山でいうと、住み込みの労働ということで、旅館で働いている方多いです。私の知り合いも和倉温泉で働いている方がいます。このあたりだと、住み込みで働ける職場として、温泉には、住み込みの母子家庭が多いということを知りました。こういったことから、地域性もあるのかな。男性と比較して言うと、女性の方が、人との関係を作りやすいかなと思っ



たりします。ホームレスになっても、まだ家族との連絡がある人というのが、男性と比較して、女性の方が多少多い。何か支援に頼っていく時にも、人との繋がりみたいなのに、頼っていくというのが、女性は多くて。支援する時とかも、そういうあたりはポイントになるのかなと思ってます。すいません。そんなあたりです。

### 水内

すいません。突然ふって。悪い癖ですね。えっと女性のホームレスの平均年齢は、男性が57位、女が53歳か54歳くらいですかね。少し若いというのが、ちょっとした調査で明らかになっています。

時間が過ぎているのでもう終わります。僕にも狙いはいくつかあって、ここで(シンポジストや参加者が)初めて出会うというパターンもいくつかあるんですよ。この仕掛けがすごく大きいんです。その仕掛けを作るために助成金書きまくって、資金集めて、皆さんを招待して。今、僕大学の手配師みたいな仕事をしているんですよ。あちこち、市内かけめぐって、仕事探して、おいしい話があれば、研究員に、しばらくはついでって。うちの学生さん、勉強しているとは言わないですよ。どちらかといえば、働いていると言う(笑)。

今日は、たくさんのオーディエンスに来ていただいて、少し時間があるので、名刺交換して、新たな出会いを作っていたら素晴らしいネットワークができると思います。

これを使わない手はないですよ。施設職員さん、給料をきっちりいただいていますので、生活には困ってません。なんぼでも、このネットワークを使ってください。そういった意味で、残りの時間、是非とも名刺交換とお話していただければと思います。

本日は、すいません、やけそな司会で乗り切りましたが。最後に、中山先生、一言お願いします。

### 中山

本日は記録係ということで参加しています。大阪府立大学の中山徹です。

ホームレスに関するシンポジウムには、多種多様なテーマがありますが、女



性ホームレスをメインテーマにしたシンポというのはきわめて少ないのでは、と思います。実は、富山市で何故って思ったんです。しかし、参加されているメンバーの話聞いて、事情がわかりました。路上の女性は、いろいろな困難を抱えている方が多いかとは思いますが。男性ではなかなかアプローチできない問題も多々あるかと思っています。今日は、いろんな意味で、私自身勉強になりました。

本日は、ありがとうございました。

### 水内

今日は、このような場を設定していただきましてありがとうございました。楽しかったです。

### 森田

皆さま、長時間にわたって、すごく熱心な討論を交わしていただき、また、熱心に聞いていただいて、ありがとうございました。

先程、柵座が良かったですけど、私たちがこの会を企画したのは、あまりにも自分たちがこういうことを知らないということに気づいたからです。特に富山のような地方都市にいますと、ホームレスの方がいないわけじゃないんですが、駅前の地下街に3人いるよねみたいな、そういう認識しかないですよ。

もうひとつ今日の隠しテーマとしては「あなたも私も明日はホームレスかも」なんですね。やっぱり私たちの問題でもあると考えたい。誰もお客さんがなくても、自分たちだけ話を聞けたらいい、そういう身勝手な企画だったのですが、来ていただいた方々、どうもありがとうございました。今日は、本当に、目から鱗が5、6枚くらい落ちたかなって。みなさんもそうだと思います。水内先生をはじめ、シンポジストの皆さんには、本当に遠くから来ていただき、長時間、金魚ばちのなかで、金魚になっていただいて、

現場で考えておられることを率直に話していただきました。ありがとうございました。シンポジストの方々に再度拍手をお願いします。







---

# URRP

---

Urban Research Plaza, Osaka City University,  
3-3-138 Sugimoto, Sumiyoshi, Osaka, 558-8585  
Japan, [office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp](mailto:office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp)

大阪市立大学 都市研究プラザ  
558-8585大阪市住吉区杉本3-3-138  
[office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp](mailto:office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp)